

令和3年度 事業報告

社会福祉法人 恵徳会

令和3年度 社会福祉法人恵徳会 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

- ① ホームページ、Instagram等を活用し、法人内の施設・事業所における日々の活動や行事、取り組みなどの情報発信を行います。
- ② 予算の執行状況、収支状況等の情報を法人全体で共有することで法人及び各事業所の経営状況を自覚し、職員一人一人が危機感を持って利用率の改善に取り組みます。
- ③ 継続的な利用者確保に向けて法人内の各事業所の特性に沿ったサービスが受けられるよう相談員等と密に連携し、「空き状況」「受け入れに時間を要するケース」などの情報共有に努め、医療機関・居宅介護支援事業所等との信頼関係を構築し、新規利用者の獲得に取り組みます。
- ④ 他営業活動を通して法人内の各事業所に対するニーズの把握及びニーズの共有を図り、各事業所のサービス向上に努めます。また散見される問題の整理と打開策の提示、今後の発展に向けた取り組みを実施します。

↓

- ・施設長会、幹部会議、各事業所のスタッフ会議等で、経営状況を説明し、経営参画の意識付けを行っている。
- ・3年度は予算の補正を3回行い収支状況の変化に対応したが、今後は当初予算作成時の利用稼働率等の積算を適正に行えるよう検討する。
- ・措置入所の減少に伴い養護老人ホーム双葉の定員変更を行い、移管時の旧建物と新建物の職員配置等の効率化を図ることで収支バランスの改善を図った。
また、今後の事業運営を健全化するために、使用しなくなった既存の建物を低コストで活用できる事業の検討を行っている。
- ・令和3年度は、年度内に利用者・職員の3回目のワクチン接種を終了し、引き続き感染予防対策に迫られた。家族からの感染により陽性者数名発生したが、幸いにも施設内の感染拡大には至らなかった。引き続き感染防止対策を行う。また、定期的にPCR検査、抗原検査を行い、陽性者の早期発見に努める。
- ・「緊急事態宣言」、「まんえん防止等重点措置」により①稼働率アップに向けた営業活動の縮小②新規利用者の受入・相談業務の中止③家族面会の制限④法人全体及び各事業所内の会議・研修の制限⑤業者の施設内立ち入り禁止等、感染防止対策に重点を置きながらの運営を引き続き行った。特に在宅事業（短期入所・通所）の利用を控えられ、年間平均稼働率が低迷したまま回復までもう少し時間を要する状況である。

2. 高品質なサービスの提供

(1) 施設内(パブリックスペース)の環境整備を行う。

- ① 安心して生活できる住環境の整備、老朽化における設備の改修に取り組みます。

(2) 利用者・家族のニーズの把握、課題の分析、実践に取り組みます。

- ① 法人の基本理念の考えのもとに、それぞれの基本姿勢への実践に取り組みます。

- ② 利用者、家族、職員へのアンケートを実施することで事業所の課題分析を行い、改善等に取り組みます。

- ③ 利用者の重度化による介護職員の負担軽減及び介護事故防止を目的とした介護ロボットの導入、勤務体制、業務内容の検討を行います。

↓

- ・利用者等のアンケートは実施できなかった。勤務体制は新型コロナによる自宅待機等が相次いだため十分できておらず4年度に引き続き業務内容を含めて検討する。
- ・施設内の設備改修は、緊急性がある事案を優先に行った。今後老朽化した大規模設備については、予算等計画性を持って改修を行っていく。

(3) 安定した経営

- ① 各拠点、及び法人全体の収支状況を把握し、中期、長期における安定した経営に向けての経営計画、資金確保に取り組みます。
- ② 法人全体における人事、利用稼働率向上、経費等の効率化を図ります。

↓

- ・常時法人全体、各拠点の資金状況を把握し、中期の資金計画の中で適時対応を図っている。
- ・職員の新型コロナ感染時は「ホームページ、家族への文書送付」を行い、逐次状況報告を行い、不安解消に努めた。
- ・年間として計画していた行事（特に施設外行事）が中止・施設内中心へと変更となった。面会も感染予防対策を行いながらタブレットの活用等により行った。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ① 法人全体において、役職・経験等に応じた研修を定期的実施し、また外部研修へ積極的な参加を推進します。
- ② 法人内スクール及び各種団体による受講費の助成等を行い、資格取得のための支援を行います。
- ③ 多様な働き方に対する雇用形態等の検討を行い、職員確保、働きやすい労働環境の整備に取り組みます。
- ④ 業務の効率化、見直しを行い、時間外勤務を減らす等の労働環境の改善に努めます
- ⑤ 新卒を含めた採用に注力すると同時に、福利厚生充実や施設環境整備、職員の要望等の顕在化を図り、離職防止に取り組みます。
- ⑥ 職員のマンパワー不足の解消と、職場の活性化や国際交流に繋げるため、EPAによる介護福祉士候補生また技能実習生の受け入れを積極的に行い、資格取得に向けての各支援を行います。
- ⑦ パワーハラスメント、セクシャルハラスメント等が起こらないよう、情報収集を行い、担当部署による早期解決を図る等、働きやすい職場環境を整えます。

↓

- ・EPA 介護福祉士候補生1名が法人内スクール受講者し無事に国家試験に合格した。今後も積極的に資格取得支援に取り組む。
- ・令和4年度4月から高校、短大、大学の新卒者を採用することができ、今後も各学校への求人活動を積極的に行う。
- ・新型コロナ感染防止により入国が遅れていたEPA 介護福祉士候補生が令和3年9月に雇用することができたが、技能実習生は令和4年5月以降の雇用となる。
令和4年度以降もEPA等の外国人労働者の受け入れを行っていく。
- ・ハラスメントの相談窓口を設け、働きやすい職場環境への対応を行っている。
- ・オミクロン株の感染が広がる中、頻回に子供の小中学校等の閉鎖、家族等の濃厚接触者となることで多数の職員が自宅待機となり勤務調整に追われた。

4. 地域貢献

- ① 法人及び施設資源を地域に還元し、地域における福祉の拠点として、地域住民が参加できるイベントや研修等を企画・実施します。また、施設職員による出前講座や施設の職場体験、施設実習受け入れなど、職員が持つ専門性を活かした活動により、介護人材の育成等を通じて地域の福祉力の向上に努めていきます。
- ② 地域住民の避難所としての施設開放と、地域住民及び施設合同の防災教育・訓練等を行います。
- ③ 各地域で開催される行事、福祉活動に参加し、地域との繋がりを図ります。
- ④ サポーターを配置し「ふくおかライフレスキュー事業」と協同により、地域の生活困窮者に対する物品等の支援を行います。また、サポーター養成研修、連絡協議会の参加等を行い対応職員の充実を図ります。

↓

- ・3年度もコロナ過における地域行事等は縮小・中止となるケースが多く、須恵町ミニデイへの職員派遣が1回行われた。また大宰府地区のあいさつ通りの清掃活動ができなかった。
- ・ライフレスキュー事業は、研修をリモートで行い、支援者の援助では、一緒に生活用品の購入を行う等、他事業間との情報共有、資料作成を行った。また職員等からの家具・家電を施設内でストックしている。
- ・子ども食堂等への寄贈品窓口として毎月活動を行った。
- ・須恵町ミニデイサービス1回、須恵町地域連携の会2回開催され参加し、地域高齢者、及び医療・福祉関係者との交流、情報交換を行った。

5. 諸会議

① 理事会

第1回 令和3年 6月9日 (Web会議)	第1号議案	令和2年度事業報告について
	第2号議案	令和2年度予算超過支出について
	第3号議案	令和2年度決算について
	第4号議案	令和2年度社会福祉充実額の算定結果について
	監事監査報告	監査報告について
	第5号議案	令和3年度第1次補正予算(案)について
	第6号議案	次期理事の候補者選任について
	第7号議案	次期監事の候補者選任について
	第8号議案	次期評議員の選任・解任委員の選任について
	第9号議案	運営規程の一部改正について
	第10号議案	諸規程の一部改正について
	第11号議案	令和3年度第1回定時評議員会開催と提案議案について
	報告事項	・令和2年度第4四半期報告 ・令和2年度第1回評議員選任・解任委員会について ・特別養護老人ホーム恵昭園新型コロナ発症について

第2回 令和3年 6月24日 (Web会議)	第12号議案	理事長選定について
	第13号議案	業務執行理事選定について
第3回 令和3年 9月28日 (Web会議)	第14号議案	令和3年度2次補正予算(案)について
	第15号議案	ホームヘルパーステーションふたば管理者選任について
	第16号議案	デイサービスセンターなのくに管理者選任について
	第17号議案	利用者預り金品管理規程の一部改正について
	第18号議案	運営規程の一部改正について
	報告事項	令和3年度 第1四半期報告 介護老人保健施設若杉の里診療所開設について
第4回 令和4年1 月13日(木) (Web会議)	第19号議案	令和3年度3次補正予算(案)について
	第20号議案	令和3年度福岡県指導監査結果について
	第21号議案	役員の報酬並びに費用弁償に関する規程の一部改正について
	報告事項	・令和3年度 第2四半期報告
第5回 令和3年 3月24日 (Web会議)	第21号議案	令和3年度4次補正予算(案)について
	第22号議案	養護老人ホーム双葉の定員変更について
	第23号議案	養護老人ホーム双葉の運営規程の一部改正について
	第24号議案	令和4年度事業計画(案)について
	第25号議案	令和4年度予算(案)について
	第26号議案	職務権限規程の制定について
	第27号議案	諸規定の一部改正について
	第28号議案	恵昭園デイサービスセンター休止及び恵昭園短期入所定員変更について
	報告事項	・令和3年度 第3四半期報告 ・特別養護老人ホーム恵昭園、介護老人保健施設若杉の里、並びに特別養護老人ホームなの国給食委託業者について

②評議員会

第1回定時 令和3年 6月18日 (書面評決)	第1号議案	令和2年度予算超過支出について
	第2号議案	令和2年度決算について
	報 告	令和2年度社会福祉充実額の算定について
	監事監査報告	監査報告について
	第3号議案	理事選任について
	第3号議案	監事選任について

	報告事項	・令和2年度事業報告 ・評議員選任・解任委員選任報告 ・令和3年度第1回理事会報告 /特別養護老人ホーム恵昭園新型コロナ発症について
--	------	---

③評議員選任・解任委員会

令和3年 5月13日

議案 次期評議員の選任

※任期：令和3年定例評議員会終結時

～令和6年度に係る定時評議員会終結時まで

④ 監事監査 令和3年 6月1日

⑤ 会計士監査 令和3年 5月24日～26日(3日間)、11月24日～25日(2日間)

⑥ 運営会議 4回

⑦ 施設長会 6回

⑧ 幹部職員会議 12回(毎月)

⑨ 各種委員会 適時開催

利用者実績推移表(令和3年度)

単位：人

恵昭園		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50.0
	利用者実績(月平均数)	42.0	39.5	39.4	39.7	37.9	40.2	41.5	44.3	43.6	40.8	41.1	44.2	41.2
	参考：前年実績	43.2	44.2	42.9	43.1	44.9	44.7	43.7	43.9	43.3	43.1	43.5	41.9	43.5

恵昭園短期		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16.0
	利用者実績(月平均数)	6.5	5.2	4.7	5.7	5.9	6.7	6.9	7.7	7.8	8.1	9.3	10.6	7.1
	参考：前年実績	5.9	5.0	6.2	5.8	6.1	7.0	6.5	7.4	7.6	6.7	7.0	6.3	6.5

アネックス		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20.0
	利用者実績(月平均数)	14.9	13.3	13.2	13.6	14.5	14.5	14.7	16.6	17.0	16.0	15.2	14.6	14.8
	参考：前年実績	15.3	16.0	16.2	17.0	17.0	17.0	17.2	17.3	16.0	16.6	15.6	15.0	16.4

恵昭園デイ		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25.0
	利用者実績(月平均数)	12.7	11.9	14.7	14.3	14.9	15.7	17.8	18.0	16.1	14.5	13.3	14.4	14.9
	参考：前年実績	18.2	16.4	16.5	17.0	13.9	14.8	14.2	13.8	15.1	12.0	12.7	14.5	14.9

双葉		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100.0
	利用者実績(月平均数)	90.7	87.9	87.8	87.3	81.8	78.5	77.4	75.5	74.8	73.9	73.8	73.2	80.2
	参考：前年実績	105.6	105.9	103.2	100.4	99.1	99.2	98.8	101.1	100.4	97.7	95.5	94.1	100.1

ふたばケア		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119.0
	登録利用者実績(月平均数)	83.0	88.0	84.0	83.0	81.0	82.0	80.0	81.0	78.0	74.0	75.0	75.0	80.3
	参考：前年実績	96.0	91.0	88.0	88.0	88.0	88.0	87.0	88.0	89.0	89.0	90.0	92.0	89.5

ふたばヘルパー		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数													
	利用者実績(1日の利用数×月平均数)	22.2	20.4	22.2	21.8	20.4	21.3	19.8	19.6	19.8	17.9	20.9	20.2	20.5
	参考：前年実績	20.5	20.6	21.8	21.5	20.1	21.0	20.5	22.0	22.5	22.7	22.8	22.8	21.6

若杉の里		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100.0
	利用者実績(月平均数)	88.2	88.9	88.6	88.6	87.6	88.8	87.4	86.4	85.9	87.9	88.5	86.0	87.7
	参考：前年実績	81.6	83.0	84.4	84.5	85.8	86.8	87.4	87.8	88.9	89.4	87.0	88.0	86.2

な の 国		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80.0
	利用者実績(月平均数)	75.9	75.8	76.1	77.2	76.0	76.2	76.6	77.8	73.8	73.7	69.4	70.1	74.9
	参考：前年実績	76.2	77.5	77.4	77.9	78.9	75.9	75.6	73.4	73.8	76.8	77.9	76.8	76.5

な の 国 短 期		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20.0
	利用者実績(月平均数)	16.2	16.7	17.1	17.1	17.3	17.0	16.7	17.9	17.3	18.0	16.9	18.4	17.2
	参考：前年実績	18.0	17.5	16.9	17.7	17.3	18.8	17.0	18.0	17.1	16.2	17.0	15.5	17.3

な の く に デ ィ		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数	25	25	25	25	28	28	28	28	28	28	28	28	27.0
	利用者実績(月平均数)	16.6	18.0	18.3	19.6	19.3	19.1	19.3	17.1	18.7	17.9	18.4	20.9	18.6
	参考：前年実績	12.7	13.1	14.6	14.0	14.4	15.9	15.9	15.1	15.6	15.3	16.1	16.7	15.0

な の く に ケ ア		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63.0
	登録利用者実績(月平均数)	47.0	46.0	46.0	51.0	49.0	50.0	52.0	54.0	55.0	54.0	53.0	52.0	50.8
	参考：前年実績	46.0	43.0	49.0	48.0	50.0	49.0	44.0	44.0	45.0	45.0	44.0	47.0	46.2

な の く に ヘル パー		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数													
	利用者実績 (1日の利用数・月平均数)	20.1	18.0	19.6	17.0	13.1	13.4	13.4	15.1	15.3	14.9	17.5	18.1	16.3
	参考：前年実績	22.4	20.8	17.7	20.6	19.6	20.2	19.3	19.2	20.5	18.5	20.3	20.4	20.0

ま ほ ろ ば の 里		R3/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4/1月	2月	3月	平均数
	定員数	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40.0
	利用者実績(月平均数)	42.7	41.0	40.9	41.7	40.7	41.0	40.4	39.7	39.5	38.5	38.8	39.0	40.3
	参考：前年実績	38.4	35.0	36.2	39.9	39.3	39.8	38.9	38.0	38.9	36.6	37.5	38.9	38.1

令和3年度 恵徳会ライフレスキュー事業報告

事業目標

- 1 社会福祉法人として目に見える形で公益活動を実践するため、地域の援護を必要とする方に対する相談活動を活発化し、関係機関との連携を十分に行って相談活動を行う中で、援護を必要とする方の心理的不安の軽減を図るとともに、必要な制度やサービスにつなげる。
- 2 生活保護等の既存制度では即応できない方で、経済的困窮により生活必需品や社会的サービスの利用が阻害されている方がいる場合、その費用等の全部または一部を現物により支援する経済的援助を行う。

具体的計画

1 サポーターの配置並びに総合生活相談活動

- ① 各事業所にサポーターを配置し、地域で生活課題を抱える方の相談が起こった際に対応し、課題の解決に努める。

↓

事務局や社会福祉協議会から要請があった際は、若杉の里サポーターと協力した。

2 経済的援助

- ① 援助を必要とする方からの相談を重ねる中で、経済的援助の必要性を判断したサポーターは相談内容に関する資料を作成し、施設長の判断により経済的援助を行う。

・ 具体的な援助方法として、生活が安定するまでの家具・家電製品（リユース品）の支給や既存制度（生活保護や日常生活自立支援事業）が適用されるまでの食料品の購入を行う。

・ 家具や家電製品（リユース品）の支給に備え、随時、職員の家庭で不要になった物品の確保を行う。

↓

各家庭で不要になった家具や家電を収集し、施設でストックした。また、ストックの整理整頓を行った。

3 地域での連絡会、研修会への参加

- ① サポーターは課題の共有や相談援助技術の向上を目的として各種研修会等に参加する。

・ サポーター養成研修会

・ 各地域での連絡会

・ 相談援助技術研修会(事例検討会)

↓

定例の連絡会については、オンラインとなっているが、若杉の里サポーターがメインで参加した。

令和3年度 特別養護老人ホーム恵昭園 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

(1) 安定した利用実績の達成

- ① 施設見学や各種相談等に柔軟に対応し、新規申込者の確保および常に経営意識を持って円滑な入所調整を行い、安定した稼働に努めます。

↓

感染対策で施設内の見学は実施出来なかったが、パンフレットを用いて各種相談等に柔軟に対応した。入所調整についてはほぼ毎月新規で入所したが、死亡、長期入院による退所者が多く、入所が追いつかない状態にあった。

- ② 法人本部と協力し営業・広報活動を積極的に行い、地域、在宅サービス提供機関、及び医療機関との連携強化・ニーズ把握、情報共有を進めて利用者確保に繋がります。

↓

法人本部の営業効果で新規申し込みに繋がったケースがあった。

- ③ 円滑な入所調整を行う為、特例入所を含め、緊急性の高い方を積極的に受け入れます。

↓

虐待に繋がる恐れがある方が3名おり、迅速に入所に繋がった。

(2) 適正な予算管理

- ① 職員全員が事業所の収支状況を共有し、一人一人が健全な経営ができるよう収入増加、コスト削減の視点に立ち、サービスの見直しや業務の効率化を図ります。

- ② 予算に基づいた収入・支出を適正におこないます。

↓

稼働率の低迷により、収入の減額補正を行ってきたが、固定費の割合が多く、最終的に収支状況は悪化した。新型コロナウイルス感染予防備品を状況に応じて順次購入した。
毎月のスタッフ会議、幹部会議において、稼働率、入退所の状況、収支状況を確認し、役職者の意識付け、他施設で参考となる事例等の情報収集を行った。

高品質なサービスの提供

(1) 介護サービスの充実

- ① 各専門委員会(入浴、排泄、食事、環境・接遇)活動は、個別ケアを基本に活性化を図ります。
また、業務の中で無駄な部分や介助器具等を用いて改善できる点、コスト削減等はないか検討し、業務改善に取り組みます。

↓

夜間帯のパットの変更や毎日行っているオムツカバーの交換が入浴介助で重複しないようにオムツカバーの交換を午前から午後に行うように変更する等、コスト削減に取り組めた。

- ② 利用者の健康状態・注意点等を職員間で周知し、安全で快適な入浴サービスを提供します。また、随時、利用者の希望を汲み取り、入浴形態・介助方法を明確にします。

↓

朝の申し送りでの当日の入浴者や健康状態等の把握や浴室のホワイトボードに情報を掲示し、安全で快適な入浴が行えるように努めた。週毎に職員の配置に合わせて、入浴人数を調

整し、週二回の入浴サービスの提供が行えるように努めた。職員数により、週二回の入浴が難しい場合は、清拭更衣にて対応した。

- ③ 利用者個々の排泄パターンや注意点を把握し、排泄用品や誘導時間、羞恥心、プライバシーに配慮した排泄ケアを提供します。また、自然排便を促す取り組みを継続します。

↓

利用者の状態に合わせて、排泄用品や介助方法等の検討を随時行い、対応できていた。

- ④ 食事時の安楽な姿勢保持や楽しめる環境作りを行います。また、水分の重要性を周知し、適量摂取に向けて取り組みます。

↓

食事の介助方法や食事形態を随時検討し、対応できていた。行事食後にアンケートを取り、厨房と検討し、利用者の希望を取り入れるなど、利用者を楽しみを持てるよう努めた。水分の重要性については過去の資料を配布し、周知に努めた。

- ⑤ 接遇マナーの手引きを基本とし、常に利用者に対し尊敬の念を持ち、謙虚で受容的な度・丁寧語を基本とした適切な言葉使いで接します。また、職員個人は発する言葉に責任を持ち、日頃の振り返りを行うと共に、職員間で注意しあえる環境を作ります。

↓

接遇マナーの手引きを基本としていたが、職員の言葉遣いの乱れがあった。その都度、申し送りにて注意喚起を行った。また、月毎に委員会で目標を決めて取り組み・評価を行った。

- ⑥ 利用者の整容・身嗜みケアを重視すると共に、衣類等の管理も徹底します。

↓

日頃より利用者の整容・身嗜みに努めた。また衣類の管理については、居室担当職員を中心に行えた。

- ⑦ 行事・レク委員会を中心に、季節に応じたフロアづくりを行うと共に、個別レクリエーション・余暇活動・年間行事等を企画・実施します。終了後は、評価を行い、次年度へ活用します。

↓

新型コロナウイルス流行にて、行事の規模縮小や中止を余儀なくされ、室内での壁飾りや雰囲気作り、少人数での個別レクが中心となった。今後も、引き続き感染対策を続けながら出来る余暇活動について行事レク委員会を中心に検討していく。

- ⑧ 利用者・家族へアンケート調査(サービス評価)を行い、課題の把握と改善策の検討、要望の実現を目指します。

↓

新型コロナウイルスの流行にて、アンケート調査は実施できなかった。

- ⑨ タブレットによる24時間シートの記録システムを導入し、利用者個々の生活や自分らしい暮らし振りの継続に着目したサービスを提供します。

↓

24時間シートの導入は行えていないが排泄記録は、記録システムで行っている。必要に応じて個別に食事の摂取記録も記録システムで行い、他職種との情報共有に活用出来た。

(2)健康状態の維持管理

- ① 高齢者の特性を理解すると共に、各職種からの情報収集や心身の状態把握に努め、健康維持や安心・安全な生活が送れるよう支援します。

↓

ケアカンファレンスに人員不足もあり中々参加できないことが多かったが、情報収集を行い、プランに沿って援助を行った。

- ② 定期健診を実施し、健診結果を嘱託医と共に入居者・家族へ報告し、治療方針や高度医療の意向確認を行います。

↓

定期健診実施は、コロナの緊急事態宣言等により、予定通りには進まなかったが、3月までに利用者全員の定期健診は終了した。健診結果の報告も随時行った。変化時は状態説明を行い治療方針や高度医療の希望の意向確認を行った。

- ③ 利用者の病歴・症状を把握し、急変時は速やかな対応を行います。また、状態変化時は、各職種と情報共有し、連携したケアを提供します。

↓

各職種と情報を共有し連携したケアに努めた。また、急変時は迅速な対応を行った。

- ④ 高まる医療ニーズに応じられるよう、受け入れ体制を整えます。

↓

事前情報をもとに予測される課題を検討し、受け入れ体制を整えた。

(3) 看取り期の円滑な提供

- ① 利用者・家族へ状態説明を行い、意向に沿ったケアを提供し、終末期の身体的・精神的負担軽減に努めます。

↓

終末期には嘱託医・看護師から状態を説明し、意向確認を行った。また、身体的・精神的負担軽減のために利用者・家族との関わりに努めた。

- ② 各職種共通の記録内容の充実を図り、連携の強化・ケアの充実を図ります。

↓

各職種共通の記録物を活用し、ケアの充実を図った。

(4) リスクマネジメントの実践と徹底

- ① 『事故予防や再発事故防止』を目標とし、過去の事故統計や分析結果を基に、各職種が専門分野における対策を実践します。

- ② 事故・ヒヤリハットが発生した場合、直近の申し送りで報告を行い、即日可能な限りの対策を講じます。改善指示内容については、再発事故防止のため、日々の業務として実践します。

↓

新型コロナウイルスの流行に伴い、定期的に月2回の委員会を開催することが難しくあったが事故・ヒヤリハット報告書の管理を行い、改善指示書を定期的に発行し、再発事故防止に努めた。年間の事故件数の集計・分析を行い、周知した。

- ③ 利用者の状態や薬剤状況を把握し、薬関係の事故防止に努めます。

↓

利用者の内服薬の変更や注意点等あれば看護師より申し送りにて周知し、事故防止に努めた。また、新人職員には服薬介助に関する徹底事項をまとめたものを配布し、周知徹底に努めた。

- ④ 褥瘡予防委員会を中心に褥瘡リスクの意識を高めます。また、褥瘡予防アセスメントを活用し、日々の観察や予防対策等のケアの統一を図り、褥瘡ゼロを継続します。

↓

年2回の褥瘡予防アセスメント評価を実施し統一したケアを行った。また、退院時の褥瘡形成利用者のケアも統一し完治につなげた。今後も褥瘡ゼロに努める。

- ⑤ 身体拘束廃止・虐待防止への理解を深め、不適切なケアの改善や職員のストレスケア等の取り組みを推進します。

↓

コロナ禍で研修が行えなかったため身体拘束廃止・虐待防止についての資料を配布し、職員の理解や不適切なケアへの認識を深め、職員のストレスケアにも取り組んだ。

- ⑥ 定期的な防災・防犯の教育・訓練に積極的に参加し、有事の際の的確な言動に繋がります。

↓

年2回の消防訓練、地震・土砂災害対応訓練、防犯訓練を実施し、常日頃スムーズに鼓動で

きるよう非常時対応の再確認等を行った。

- ⑦ 苦情解決第三者委員に対して事故・苦情等の報告を行い、透明性のある運営を行います。

↓

年2回の第3者委員に対する「苦情、日頃の利用者・家族からの要望に対する対応状況、事故報告」等を行い、施設対応への意見を頂いた。

- ⑧ 施設賠償保険に加入し、事故発生時は誠意ある対応を行います。

↓

毎年度、施設内事故に対する賠償保険に加入し、骨折等の入院費・見舞金の対応を行った。

(5) 感染症対策への取組み

- ① 感染症対策委員会(内部・若杉の里合同)を通じて情報共有を図り、マニュアルの周知と的確な予防対策を行います。
- ② 職員の感染リスクに対する認識をしっかりと持ち、感染予防へ取り組みます(職場外も含む)。
- ③ 感染予防および拡大防止に資する清掃・環境整備等の衛生面への取り組みを徹底します。
- ④ 有事(疑い含む)の際は、迅速かつ適切に感染対策を講じます。また、有事に備え物品等を備蓄しておきます。
- ⑤ 県内や施設近隣の発生状況等を把握・共有します。
- ⑥ 「面会制限」に伴う入居者・家族への心理的負担に配慮した取組みを行います。

↓

感染症対策委員会は、コロナ禍でも極力開催し、新型コロナウイルスの動向等を情報共有し、今後の感染対策についての検討を行った。有事の際は、看護職、事務所職員と連携し、適切な感染対策を講じることが出来た。コロナの動向に応じて、面会制限⇄一部緩和を繰り返したが、制限中のご家族へのアプローチが課題である。

(6) ケアプラン及びカンファレンスの充実

- ① 各職種が率先して利用者・家族との関係性を深め、意向に沿えるケアプランの作成に取り組みます。

↓

感染対策にてご家族と直接係る事が出来なかった為、書面を用いてご意向の確認を行い、カンファレンスを通して全体でプランニングを行った。

- ② カンファレンスの重要性を共有し、各職種共通認識のもと個別ケアの向上に繋がります。

↓

カンファレンスの中で、他職種が意見を出し合う事で共通認識を持つ事ができ、個別ケアの向上に努める事が出来た。

(7) 食事サービスの充実

- ① 栄養ケアマネジメント・カンファレンスを実施し、各職種からの情報提供・意見交換により、利用者個々の健康状態や身体状況・嗜好に沿った食事・形態・療養食・代替食品・補助食品を適宜検討します。

↓

月1回各職種と利用者の情報共有が出来た。適正な食事内容・食形態・代替食品(嗜好品)・補助食品を検討し、提供が行えた。

- ② 年間行事予定に基づいた行事食を実施し、食欲や季節感を感じられる食事を提供します。

↓

年間行事予定に基づいて、行事食の実施が出来た。

新型コロナウイルス流行にて提供方法の変更を今年度も行った。食材費高騰により、出来る限り季節感や入居者に喜ばれる食事内容に努めた。

- ③ 嗜好調査や残食調査、行事食アンケート等を実施し、献立に反映させ、満足度の向上を図ります。

↓

毎日の残食調査を実行し、献立に反映させ満足度の向上に繋げた。今後も継続し、満足度の向上に努めていきたい。

- ④ 定期的な給食委員会や連絡ノートを活用し、給食委託業者との連携・情報共有を図ります。

↓

新型コロナウイルスにて給食委員会が中止になることがあったが、資料配布を行った。随時事故報告開示を行い、再発防止に努めた。

連絡ノートや毎日の食事形態表を活用することにより、給食委託会社との連携・情報共有を図った。

(8)安全なリハビリテーションの実施

- ① ケアカンファレンスや全職員研修会・申し送り等で、生活リハビリや廃用症候群について学び、全職員で継続した支援に取り組みます。
- ② 各職種と情報共有を密におこない、機能低下が予測される利用者へ集中した観察や生活支援を行います。また、必要時は、速やかに福祉用具の検討・導入を行い、適時、使用状況を確認します。
- ③ リハビリに関連した内容等は、各担当職員へ説明・伝達を行い、各利用者の生活動作の維持・低下防止に努めます。

↓

全職員研修会が出来なかった分、申し送りや申し送りノート、ケアカンファレンスの活用を強化し、統一した生活支援・観察を実施した。

- ④ リハビリで使用する物品の管理や手入れを定期的に行い、安全にリハビリを実施します。

↓

平行棒や爪切りなど毎日活用品に関しては特に消毒・拭き取りを強化した。又食堂椅子や車いす・ベッド周辺のネジや留め具などを適時、確認・とめ直し等実施した。

(9)適正な事務業務

- ① 介護保険に沿った介護請求、預り金・保険証等の管理を適正に行います。

↓

介護ソフトによるレセプト請求を行い、複数職員による預り金管理、保険証の管理、利用料未納者の把握・徴収を行った。

(10)住環境整備

- ① 生活環境としての快適性、利便性、安全性を追求し、必要な対策を速やかに行います。
- ② 職員一人一人が環境美化に努め、生活の場としてふさわしい空間とします。

↓

日常の清掃やナースコール等の機器の点検、故障や破損時の迅速な交換など、できる限り必要な環境整備に努めた。また、カーテンによるプライバシー確保・保護等の配慮を行った。新型コロナウイルスの流行もあり、手すりやテーブル等のアルコール消毒にも努めた。

- ③ 老朽化している設備の改修を行い、安全な生活環境整備を行います。

↓

居室内の空調機器故障時の早急な修理、落雷による空調設備の復旧等、直接利用者の生活環境に関わる修理を優先的に対応した。

- ④ 衛生管理を徹底します(衛生マニュアルの確認と実施、腸内細菌検査の実施、ゴキブリ駆除、排水管清掃、受水槽・循環風呂の感染症予防等)。

↓

腸内細菌検査は月1回実施し、検査に問題はなかった。ゴキブリ駆除は業者に年4回実施し、常時は駆除具の設置を行った。受水槽清掃、循環風呂の配管清掃は、年1回実施、循環風呂の残留塩素検査を毎日行い、レジオネラ菌等の検出はなかった。また、井戸水を専用水道

として使用しているため毎月の水質検査を行った。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

(1) 知識・技術、専門性の向上

- ① 介護保険制度や他制度の動向等の情報を収集し共有します。
- ② 利用者の高齢化や重症化に伴い、より多くの知識や介護・看護技術を習得し、専門性の向上を図ります。
- ③ 各職種が専門職としての役割を自覚し、常に探究心や向上心を持ち、自己研鑽に努めます。
- ④ 年間研修計画に沿った内部研修や法人研修などに積極的に参加します。

↓

専門職としてのスキルアップに関しては、例年、内部研修等で行っていたがコロナ過で内部研修の開催が難しく、コロナの動向に合わせて実施できた研修もあったが十分ではなかった。研修で使用する予定だった資料の配布を行い、自己学習を促した。

(2) 職員の育成

- ① 中堅職員は責任ある業務に就き、課題発見や改善に努め、リーダーシップ力を養います。また、積極的に外部研修へ参加します。

↓

中堅職員と連携をとり、課題の発見や改善に努めることが出来た。外部研修への参加は新型コロナウイルスの流行により出来ていない。

- ② 職員の介護方法等の習熟度を明確にし、目標を達成出来ていない職員には指導職員が、随時個別指導を実践します。また、指導後の確認・評価を行いフィードバックします。

↓

介護現場にて実践に基づいた個別指導や指導後の確認・評価を行い、各職員へのフィードバックを行った。

- ③ 各種資格取得及び資格更新に対する支援を行い、専門職としての資質向上を図ります。

↓

なほくにケアスクールの「実務者養成研修、初任者研修」の受講、全国社会福祉協議会による「施設長資格認定講習」の受講を行った。

- ④ 人事考課制度による適切な評価を行い、昇給・昇格等キャリアアップへ繋がります。

↓

年2回のキャリアパスを行い、自己評価に基づいた上司のアドバイス等によりキャリアアップに繋がった。

(3) 働きやすい職場環境作り

- ① 『利用者へ良いサービスを提供するためには、働いている職員にとっても良い環境でなければならない。』という視点に立ち、常に職場環境に目を配り、多様な働き方の促進を検討し、職員が働きやすい環境づくりを目指します。

↓

業務内容の見直し・改善を行い、職員が働きやすい環境づくりに努めた。職員数が少ない中で利用者へのサービス提供が十分に行えるよう工夫した。

- ② 職員の目標を明確にし、やりがいのある職場環境を作ります。また、日頃から、職員の疑問や不安等を早期解決し、やる気の継続に努めます。

↓

キャリアパスのフィードバックシートの内容に職員へ目標を提示し、やりがいを持てるように努めた。職員の疑問や不安等については業務の中で話を聞き、解決できるように努めていた。

- ③ 労基法に基づく健康診断、メンタルヘルスチェック、予防接種の補助等を行い、健康で働ける職場図作りを目指します。

↓

年2回の健康診断、年1回のストレスチェックを行い、インフルエンザワクチンの接種料を補助、新型コロナワクチンの接種支援等を行い、体調不良時の勤務スケジュールの変更を柔軟に行った。

- ④ 労基法、介護保険法等のコンプライアンス遵守体制を図り、明るく働きやすい職場環境作りを行います。

↓

内部研修等により虐待・身体拘束等の法令順守の意識を高め、ハラスメント相談窓口等を設けることで早期発見、離職防止をおこなった。

- ⑤ 職員採用に向けた求人活動を充実させ、また福利厚生等の見直しによる離職防止に向けた取組を行います。

↓

ホームページによる求人内容を充実、高校、専門学校等への求人活動を行うことで、新卒者、中途採用者の確保、また職員紹介会社も利用しながら、職員不足の解消を行っている。新型コロナ感染防止対策として互助会を中心とした忘年会が中止となり、施設内、法人内のコミュニケーションが図れない状況であった。

4. 地域貢献

(1) 信頼関係の構築

- ① 社会資源の活用や地域行事への参加を積極的に行い、地域交流を深めます。

↓

感染対策を行った上で地域行事(上須恵ミニデイ)への参加を行った。

- ② ふくおかライフレスキュー事業の情報を共有し、積極的に支援活動に参加します。

↓

連絡会はリモートで参加し、課題把握に努めた。社会福祉協議会から支援の要請を受けた際は積極的に参加した。

- ③ 自然災害等の有事の際は、福祉避難所としての機能を確保します。

↓

自然災害で役場から要請を受けた際は地域に向けて解放を行った。また、地域防災訓練の参加も行った。

利用者状況

①入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	1	0	2	1	0	1	2	3	2	0	1	2	15
退所者数	0	3	1	1	0	1	0	1	2	1	1	1	12
月末在籍者数	44	41	42	42	42	42	44	46	46	45	45	46	43.8
月末在所者数	41	39	41	39	38	42	43	45	44	41	41	44	41.5
のべ利用者数	1261	1224	1182	123	1176	1206	1288	1328	1353	1265	1152	1371	13929
稼働率	84%	79%	79%	8%	76%	80%	83%	89%	87%	82%	82%	88%	76%

②月別要介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
要介護2	4	3	3	3	3	3	4	5	5	5	5	4
要介護3	14	14	15	15	15	15	15	15	16	16	15	16
要介護4	16	15	15	15	15	14	15	14	13	12	13	14
要介護5	7	7	6	6	6	7	7	9	9	9	9	9
合 計	44	41	42	42	42	42	44	46	46	45	45	46
平均要介護度	3.45	3.4	3.4	3.41	3.43	3.43	3.43	3.45	3.43	3.43	3.48	3.47

③年齢

令和3年3月31日現在

	男 性	女 性	全 体
最高年齢	95歳	102歳	102歳
最低年齢	67歳	66歳	66歳
平均年齢	82.4歳	85.1歳	84.4歳

事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	1	0	0	1	0	0	0	1	2	1	1	0	7
座り込み、落床	0	0	1	3	0	0	1	0	1	0	0	1	7
誤嚥・誤飲	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
異食等	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3
皮膚のトラブル	3	0	2	4	2	0	3	2	0	3	5	4	28
配薬関係	2	0	0	0	3	0	1	2	1	4	1	0	14
その他	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	5
合 計	7	0	3	9	5	0	7	6	4	11	9	5	66

苦情受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

恵昭園リハビリ状況

月別リハビリ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訓練室リハ	117	102	138	152	148	137	140	147	178	146	153	176	1734
	(16回)	(15回)	(19回)	(20回)	(20回)	(17回)	(18回)	(19回)	(22回)	(18回)	(17回)	(21回)	(222回)
居室リハ	63	112	89	84	67	84	93	66	84	48	69	51	910
	(13回)	(16回)	(18回)	(17回)	(18回)	(14回)	(16回)	(12回)	(19回)	(14回)	(15回)	(15回)	(187回)
ショートステイ	14	8	13	13	10	15	10	16	29	27	23	38	216
	(9回)	(5回)	(8回)	(10回)	(7回)	(10回)	(8回)	(9回)	(12回)	(11回)	(10回)	(16回)	(115回)
計	194	222	240	249	225	236	243	229	291	221	245	265	2860

訓練室リハビリ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
起立訓練	14	18	30	33	27	19	16	12	12	12	18	9	220
平行棒内歩行	15	9	15	21	17	18	18	24	19	20	30	28	234
歩行訓練	19	21	37	31	19	15	15	10	10	9	22	14	222
可動域訓練	61	50	64	70	66	56	60	64	76	62	73	64	766
ホットパック	69	51	62	67	85	85	85	88	111	98	107	123	1031
その他													
計	178	149	208	222	214	193	194	198	228	201	250	238	2473

アネックス恵昭園リハビリ状況

月別リハビリ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計	44	60	47	52	60	50	46	51	52	43	21	54	580
	(6回)	(9回)	(8回)	(8回)	(9回)	(8回)	(8回)	(9回)	(9回)	(8回)	(4回)	(9回)	(95回)

訓練内容別リハビリ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
起立訓練	3	2	3	8	9	6	6	5	3	3	1	4	53
平行棒内歩行	1	3	3	0	1	1	5	8	8	8	3	9	50
歩行訓練	13	20	15	11	13	8	10	7	7	3	5	11	123
可動域訓練	44	60	47	52	59	50	46	51	52	43	20	49	573
ホットパック													
その他													
計	61	85	68	71	82	65	67	71	70	57	29	73	799

行事実施状況

月	日	行 事	利用者数
4	3	お花見弁当	全員
	9	喫茶	全員
	23	卯月の会	全員
	29	食事バイキング	全員
5	8	喫茶	全員
	22	皐月の会	全員
	27	食事バイキング	全員
6	4	喫茶	全員
	17	食事バイキング	全員
	24	水無月の会	全員
7	6	喫茶	全員
	21	文月の会	全員
8	5	納涼会	全員
	12	お盆法要(祭壇のみ)	
	19	喫茶	全員
	26	食事バイキング	全員
	31	葉月の会	全員
9	3	喫茶	全員
	18	お彼岸法要(祭壇のみ)	
	20	敬老祝賀会	全員
	30	食事バイキング	全員
10	7	喫茶	全員
	12	神無月の会	全員
	21	食事バイキング	全員
11	5	喫茶	全員
	17	霜月の会	全員
	25	食事バイキング	全員
12	8	利用者忘年会	全員
	16	喫茶	全員
1	1	新年祝賀	全員
	20	食事バイキング	全員
	26	喫茶	全員
2	2	節分行事	全員
	5	喫茶	全員
	11	如月の会	全員
	24	食事バイキング	全員
3	10	喫茶	全員
	18	お彼岸法要(祭壇のみ)	
	26	弥生の会	全員
	31	食事バイキング	全員
新型コロナウイルス感染症対策のため、外出行事などは中止する。 また、集団やフロア間の移動を伴う施設内行事についても、開催を 自粛したり、開催方法をフロアごとにする。			

施設内研修実施状況

開催年月日	研 修 内 容	参加職種	参加人数
R3.4.23	令和3年度 事業計画説明会		
5.28	高齢者の特性と基礎看護、救急法 食中毒の予防と対策		
6.25	身体拘束廃止と虐待防止		
7.30	褥瘡予防と生活リハビリ		
8.27	コンプライアンスについて(外部講師)		
9.24	認知症ケア(外部講師)		
10.22～31	感染症予防と対策	各自で動画視聴	
11.20～30	身体拘束・リスクマネジメント	各自で動画視聴	
12.17	メンタルヘルス(オンライン)(外部講師)	全職員	20名
12.14、17	法人新職員研修(オンライン)	介護職員	従来型3名
R4.1.11、18、25	法人新職員研修(オンライン)	介護職員	従来型3名
2.25	令和3年度 事故報告・リスク検討会、身体拘束について		
3.25	令和2年度 委員会活動報告・サービス評価		
	新型コロナウイルス感染症対策のため、施設内研修は基本的に中止とし、資料配布のみとする。		

施設外研修実施状況

開催年月日	研 修 内 容	参加職種	参加人数
R3.12.1、8	キャリアアップ研修(オンライン)	相談員	アネックス1名

ボランティア来園状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個人													0 回
サークル指導													0 回
団体													0 回
延べ回数													0 回
延べ人数													0 人

※ 新型コロナウイルス感染予防対策のため受け入れ中止

実習受け入れ状況

期 間	学 校 名	人 数

※ 新型コロナウイルス感染予防対策のため受け入れ中止

令和3年度 特別養護老人ホーム恵昭園ショートステイ 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

(1) 安定した利用実績の達成

- ① 常に目標人数や稼働率を意識して、円滑な受け入れを行います。

↓

前年度と比較すると数字は上がってきているが、目標人数には及ばなかった。

- ② 法人本部と協力し広報・営業活動を行い、関係機関との信頼関係作り・ニーズ把握に努め、新規利用者の受け入れを積極的に行います。また、利用者・家族が安心して利用できるような関わりを持ち、再利用や定期利用に繋がります。

↓

広報・営業と連携しながら新規についてはほぼすべて受け入れを行った。リピート率も良く、ほぼすべての方がリピーターだが、利用泊数が少ないので数字には繋がりにくかった。

- ③ 緊急利用の受け入れ・利用の追加(延長)・時間外送迎等、可能な限り、利用者・家族の要望に応じた柔軟なサービス提供に努めます。

↓

突発的な利用でも緊急性を加味して随時受け入れを行った。

- ④ 看護・介護職と連携し、医療ニーズの高い方も可能な限り受け入れを行います。

↓

事前の面談で対応出来る方についてはすべて受け入れを行った。

- ⑤ 介護予防の方やロングショートの受け入れを積極的に行い、選ばれる施設に向けて信頼を得るサービスを提供します。

↓

ロングショートは問い合わせ自体が圧倒的に少なく、ほぼ受け入れに繋がっていない。年度末に数名受け入れたのみで、ロングショートのニーズが少なかった。

- ⑥ 固定利用の方のサービス中止やロングショートの終了等、大幅な稼働の停止に出来る限り迅速に対応できるよう、顧客を増やします。

↓

単発利用の方が中心だが、顧客増加は出来た。

(2) 適正な予算管理

- ① 職員全員が事業所の収支状況を共有し、一人一人が健全な経営ができるよう収入増加、コスト削減(ペーパーレス・節電・節水等)の視点に立ち、随時、サービスの見直しを行います。

- ② 予算に基づいた収入・支出を適正におこないます。

↓

・稼働率の状況により、収支の補正を行ってきた。週末の稼働率は良いが、平日の利用者確保が今後の課題となる。

・毎月のスタッフ会議、幹部会議において、稼働率、入退所の状況、収支状況を確認し、役職者の意識付け、他施設で参考となる事例等の情報収集を行った。

2. 高品質なサービスの提供

(1)利用者・家族との信頼関係の構築

- ① 利用者の心身状態やニーズ・家族の希望等を的確に捉え、各職種と情報共有し、利用者個々の暮らし振りが継続できるよう支援します。
- ② 利用者・家族のサービス評価(アンケート調査)を実施し、意向等の把握に努め、サービス内容や質の向上に繋がります。

↓

新規契約時に詳しく聞き取りを行い、フェースシートを用いて情報共有を行った。

サービスアンケートは実施出来なかった。

- ③ サービス担当者会議に積極的に参加し、利用者・家族・担当ケアマネジャー・各サービス事業者間との連携・情報共有に努め、関係職種・職員へ情報提供及び周知を図ります。

↓

コロナの影響で担当者会議は新規以外は照会での対応を行った。

- ④ 送迎時等のコミュニケーション・利用状況報告書(及び連絡ノート)等を活用し、情報収集・提供を行います。また、要望(依頼事)等に対しては、利用者個々で履歴管理(記録)し周知を図ります。

↓

ご利用状況の報告書は随時お渡ししているが、定期的にご利用される方の内容が薄く、ご家族から指摘を頂いた事があった。

(2)適正な事務業務

- ① 介護保険に沿った介護請求を適正に行います。

↓

介護ソフトによるレセプト請求を行い、利用料未納に対する把握・徴収を行った。

(3)介護サービスの充実

- ① 初回利用者に対しては、精神的負担の緩和・リスクマネジメントの視点を持ち、意識的な関わり・詳細な記録・情報共有等を通して、安全で安心できる生活の場を提供します。

↓

初回利用の方にはご家族の協力も得ながら精神的負担の緩和を図った。利用者の趣味・嗜好を事前に把握し、出来る限り在宅とのギャップを取り除くよう努めた。

- ② 認知症等による行動障害・精神症状に対して予測・予防的な支援と安心できる対応を行います。

↓

認知症の症状により契約が出来ても利用に繋がらないケースが1件あった。ご家族の協力を得ながら安心して頂けるよう対応を行ったが、対応が困難でご帰宅となった。

- ③ 職員によるサービス評価を実施し、課題を分析・検証し、基本サービスの改善及び充実を目指します。

↓

会議を開催して課題共有をする事は出来なかったが、介護記録や連携ノートを参考にしながら随時サービス提供の見直し、更新を行った。

- ④ 他部署(通所介護)の利用者については、部署間で情報共有を行い、一貫性のあるサービスを提供します。

↓

医療ニーズがある方については連携ノートを活用し、一貫性のあるサービスを提供に努めた。

- ⑤ 行事・レク委員会を中心に、季節に応じたフロア作りやレクリエーションを実施します。また、利用者自身が目的を持って利用できるよう、計画的かつ個別的プログラムを検討・実施しま

す。

↓

コロナの影響で外出に関わるような行事は実施せず、屋内で実施出来る行事を行った。

- ⑥ 利用者個々の身体状態や在宅での暮らし振りに即した生活環境を整えます。また、快適な生活空間を提供できるよう清掃・整理整頓を徹底します。

↓

在宅での生活情報をもとに、生活空間の設定を行った。日々の清掃についてはマンパワーの問題もあって不十分な箇所もあった。限られた業務時間の中で実施出来るよう、工夫が必要だった。

- ⑦ 業務の見直しや現行の評価を定期的に行いながら現状の課題を把握し、必要に応じて業務改善を行います。

↓

課題把握については随時情報共有を行いながら実施したが、ご利用者への還元、コスト削減に繋がるような業務改善は行っていない。

(4) リスクマネジメントの徹底

- ① 利用時毎の利用者の体調や状態変化等を情報収集し、関係職種間で確実な伝達を行います。
- ② 体調や状態変化については、利用中の継続的な観察と記録を行い、異常の早期発見に努めます。
- ③ 事故の再発防止や事故の予防・予測に有効活用できるような記録内容とします。

↓

介護職員・看護職員を中心に随時観察を行い、異常の早期発見に繋がったケースもあった。

- ④ 苦情解決第三者委員に対して事故・苦情等の報告を行い、透明性のある運営を行います。

↓

事業所単位で事故の集計を行い、報告を行った。

- ⑤ 施設賠償保険に加入し、事故発生時は誠意ある対応を行います。

↓

毎年度施設賠償保険に加入し、骨折等の事故に対する補償対応に備えているが、3年度はなかった。

- ⑥ 定期的な防災・防犯の教育・訓練に積極的に参加し、有事の際の的確な言動に繋がります。

↓

有事の際、適切に対応できるよう訓練に参加した。

(5) 健康管理

- ① 看護スタッフを中心に、日々のバイタルチェック・心身の状態観察等により状態の把握や維持に努め、家族等への相談・報告を行い、有事の際は迅速に対応します。

↓

異常時は迅速に報告・対応し、重症化を防ぐ事が出来た。

- ② 利用者の持参薬の把握や徹底した管理に努め、薬関係の事故を無くします。

↓

服薬については適切に管理出来たが、返却忘れが目立った。

(6) リハビリテーションの実施

- ① リハビリスタッフを中心に、利用者・家族の希望に応じ個別機能訓練を実施し、『できる事・している事』を日常のケアに反映します。また、在宅生活継続の意識を持ち、身体機能・日常生活動作の維持・活用に視点を置いて実施します。

↓

在宅で出来ている事の維持・また、希望されるリハビリを聴取し、実施した。

(7)住環境整備

- ① 生活環境としての快適性、利便性、安全性を追求し、必要な対策を速やかに行います。
- ② 職員一人一人が環境美化に努め、生活の場としてふさわしい空間とします。
- ③ 老朽化している設備の改修を行い、安全な生活環境整備を行います。
- ④ 衛生管理を徹底します(衛生マニュアルの確認と実施、腸内細菌検査の実施、ゴキブリ駆除、排水管清掃、受水槽・循環風呂の感染症予防等)。

↓

腸内細菌検査は月1回実施し、検査に問題はなかった。ゴキブリ駆除は業者に年4回実施し、常時は駆除具の設置を行った。受水槽清掃は、業者に年1回実施が出来た。

(8)感染予防に対する取り組み

- ① 感染症対策委員会を中心に、感染症の発症予防・発症時の拡大防止に資する徹底した清掃・環境整備に努めます。また、時期に応じた情報を収集し、利用者・家族・職員への注意喚起を行います。
- ② 利用者は送迎車乗車前に検温を行い、熱発やその他異常が疑われる際はご利用をお断りします。
- ③ 利用中に体調不良を確認した際は、ご家族やケアマネジャーに報告し、速やかに医療機関へ受診をして頂きます。又、検査結果が分かるまではフロアを一時隔離して万一に備えます。
- ④ 送迎で使用した車両や車椅子については使用毎に消毒を行います。

↓

法人の感染対策委員会に指示に基づき、定期的に感染対策を行った。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

(1)職員資質の向上

- ① フロア会議を開催し、職員間の情報共有・意思統一を図り、サービスの質やチーム力を高めます。
- ② 勉強会を開催し、介護保険制度等の理解・介護技術や知識等のレベルアップを図ります。
- ③ 全職員研修会・法人事例発表会などへの参加と発表の機会を持ちます。
- ④ 外部研修へ積極的に参加します。

↓

会議・研修については感染対策で実施していない。会議が実施出来ない分、連携ノートを用いて課題把握と情報共有を行った。

- ⑤ 各種資格取得及び資格更新に対する支援を行い、専門職としての資質向上を図ります。

↓

該当する事例はなかった。

- ⑥ 人事考課制度による適切な評価を行い、昇給・昇格等キャリアアップへ繋がります。

↓

年2回のキャリアパスを行い、自己評価に基づいた上司のアドバイス等によりキャリアアップに繋がっている。

(2)働きやすい職場環境作り

- ① 労基法に基づく健康診断・メンタルヘルスチェック及び予防接種の補助を行い、健康で働ける体制を支援します。
- ② 労基法、介護保険法等のコンプライアンス遵守体制を図り、明るく働きやすい職場環境作りを行います。
- ③ 職員採用に向けた求人活動を充実させ、また福利厚生等の見直しによる離職防止に向けた

取組を行います。

↓

・労働安全衛生法に基づく職員検診、ストレスチェックを行い、異常者のフォローアップを行っている。

・内部研修等により虐待・身体拘束等の法令順守の意識を高め、ハラスメント相談窓口等を設けることで早期発見、離職防止をおこなった。

4. 地域貢献

(1)信頼関係の構築

- ① 通所事業所と連携しながら家族アンケートを実施し、ご希望に応じた介助方法に関する勉強会を開催します。

↓

家族愛及び、勉強会の実施はなかった。

- ② 「ふくおかライフレスキュー事業」の情報を共有し、積極的に活動に参加します。

↓

連絡会を通じて地域の課題把握に努めた。

実績報告(令和3年4月～令和4年3月末)

1、月別利用者数(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
介護予防	3	3	4	4	5	4	3	6	5	4	3	4	48	4.0
介護	13	8	17	24	20	23	29	27	25	24	23	26	259	21.6
合計	16	11	21	28	25	27	32	33	30	28	26	30	307	25.6
前年度	15	16	19	16	15	24	20	24	22	21	17	20	229	19.1

2、月別要介護度別利用者数(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要支援1	1	1	2	1	2	1	1	2	2	0	0	1	14	1.2
要支援2	2	2	2	3	3	3	2	4	3	4	3	3	34	2.8
平均要支援度	1.7	1.7	1.5	1.8	1.6	1.8	1.7	1.7	1.6	2.0	2.0	1.8		1.7
合計(予防)	3	3	4	4	5	4	3	6	5	4	3	4	48	4.0
要介護1	2	2	6	5	3	5	8	7	8	6	6	6	64	5.3
要介護2	5	4	6	6	7	8	8	10	7	8	8	9	86	7.2
要介護3	2	0	2	5	3	3	4	3	3	1	2	2	30	2.5
要介護4	1	1	1	2	2	2	1	1	1	3	2	2	19	1.6
要介護5	3	1	2	6	5	5	5	6	6	6	5	7	57	4.8
平均要介護度	2.8	2.4	2.2	2.9	3.0	2.7	2.5	2.6	2.6	2.8	2.7	2.8		
合計(介護)	13	8	17	24	20	23	26	27	25	24	23	26	256	21.3
総合計	16	11	21	28	25	27	29	33	30	28	26	30	304	25.3
前年度	15	16	19	16	15	24	20	24	22	21	17	20	229	19.1

3、月別要介護度別利用日数(単位:日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要支援1	6	2	4	2	4	2	6	6	5	0	0	2	39	3.3
要支援2	15	15	20	27	23	24	20	33	36	47	35	35	330	27.5
1日平均(人)	0.7	0.5	0.8	0.9	0.9	0.9	0.8	1.3	1.3	1.5	1.3	1.2		
合計(予防)	21	17	24	29	27	26	26	39	41	47	35	37	369	30.8
要介護1	26	14	31	28	30	32	47	37	43	35	50	65	438	36.5
要介護2	73	66	61	70	72	84	79	89	83	91	77	89	934	77.8
要介護3	5	0	8	20	16	19	21	16	20	16	24	35	200	16.7
要介護4	4	2	6	6	7	7	4	5	5	11	26	47	130	10.8
要介護5	15	5	11	26	31	36	42	45	50	51	48	56	416	34.7
1日平均(人)	4.1	2.8	3.9	4.8	5	5.9	6.2	6.4	6.5	6.6	8	9.4		
合計(介護)	123	87	117	150	156	178	193	192	201	204	225	292	2,118	176.5
総合計	144	104	141	179	183	204	219	231	242	251	260	329	2,487	207.3
利用率(%)	30	21	29	36	37	43	44	48	49	51	58	66		42.7
前年度	178	187	188	182	190	212	199	224	263	210	195	196	2,424	202.0

4、月別新規利用者受け入れ(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
介護予防	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0.3
介護	0	0	5	3	0	0	1	0	1	1	0	1	12	1.0
合計	1	0	5	4	1	0	1	0	1	1	0	1	15	1.3
リピーター	0	0	5	3	0	0	1	0	1	1	0	1	12	
リピート率(%)	0	0	100	75	0	0	100	0	100	100	0	100		
前年度	0	0	3	0	0	4	1	4	1	1	0	2	16	1.3

5、月別各種加算状況(単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
機能訓練	31	15	28	30	29	48	26	44	44	35	84	82	496	802
サービス提供Ⅰ	144	104	141	179	183	202	213	231	242	246	260	294	2,439	2,424
看護体制Ⅰ	0	0	0	0	0	0	0	192	201	199	225	257	1,074	0
看護体制Ⅱ	0	0	0	0	0	0	0	192	201	199	225	257	1,074	0
夜勤職員配置Ⅰ	123	87	117	150	156	176	187	192	201	199	225	257	2,070	2,145
送迎(片道)	45	35	82	103	100	115	128	145	146	134	109	142	1,284	844
長期減算	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	-1,350	

6、担当者会議(単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用	0	0	4	0	0	0	2	0	2	1	0	1	10
居宅変更	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
ENT時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
契約のみ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
モニタリング等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
プラン更新	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	4
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	0	0	4	0	2	0	3	1	4	1	1	2	18
前年度	3	0	4	2	1	3	4	2	3	1	0	1	24

施設内研修実施状況

開催年月日	研 修 内 容	参加職種	参加人数
R3.4.23	令和3年度 事業計画説明会		
5.28	高齢者の特性と基礎看護、救急法 食中毒の予防と対策		
6.25	身体拘束廃止と虐待防止		
7.30	褥瘡予防と生活リハビリ		
8.27	コンプライアンスについて(外部講師)		
9.24	認知症ケア(外部講師)		
10.22～31	感染症予防と対策	各自で動画視聴	
11.20～30	身体拘束・リスクマネジメント	各自で動画視聴	
12.17	メンタルヘルス(オンライン)(外部講師)	全職員	20名
12.14、17	法人新職員研修(オンライン)	介護職員	従来型3名
R4.1.11、18、25	法人新職員研修(オンライン)	介護職員	従来型3名
2.25	令和3年度 事故報告・リスク検討会、身体拘束について		
3.25	令和2年度 委員会活動報告・サービス評価		
	新型コロナウイルス感染症対策のため、施設内研修は基本的に中止とし、資料配布のみとする。		

施設外研修実施状況

開催年月日	研 修 内 容	参加職種	参加人数
R3.12.1、8	キャリアアップ研修(オンライン)	相談員	アネックス1名

ボランティア来園状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個人													0 回
サークル指導													0 回
団体													0 回
延べ回数													0 回
延べ人数													0 人

※ 新型コロナウイルス感染予防対策のため受け入れ中止

実習受け入れ状況

期 間	学 校 名	人 数

※ 新型コロナウイルス感染予防対策のため受け入れ中止

令和3年度 アネックス恵昭園 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

利用率の向上

(1) 安定した利用実績の維持

- ① 入退居における円滑な調整を行い、年間を通してベッド稼働率が維持できるよう取り組みます（目標値：平均18名／日）。
- ② 法人本部と協力し営業・広報活動に努め、在宅サービス提供機関、居宅介護支援事業所、医療機関との連携強化・ニーズ把握・情報共有に努め新規申込者（待機者）の確保に繋がります。
- ③ 入所申込者（待機者）に対し、定期的に連絡を取り、近況・現状の把握に努め、適時の入居に繋がります。また、緊急性などを考慮し、新規申込者からも積極的に入居受け入れをします。

↓

新型コロナウイルス感染症対策に伴う新規入居控えや待機者減などにより、年間を通して稼働率が低迷した。満床になることもなく、年間平均が14.7名であった。待機者減により、新規申込者からタイムリーに入居に繋がるように努めたが、入退居共に年間各5名であり、稼働率向上にはつながらなかった。現場のマンパワーとの兼ね合いはあるが、できる限り積極的に入居につなげ稼働率向上を目指したい。

(2) 適正な予算管理

- ① 職員全員が事業所の収支状況を共有し、一人一人が健全な経営ができるよう収入増加、コスト削減の視点に立ち、サービスの見直しや業務の効率化を図ります。
- ② 予算に基づいた収入・支出を適正におこないます。

↓

稼働率の低迷により、収入の減額補正を行ってきた。
毎月のスタッフ会議、幹部会議において、稼働率、入退所の状況、収支状況を確認し、役職者の意識付け、他施設で参考となる事例等の情報収集を行った。

1. 高品質なサービスの提供

(1) 介護サービスの充実

- ① 24時間シートを有効的に活用するために、状態変化・対応の変化時の随時更新を徹底し、入居者個々のこれまでの生活や自分らしい暮らし振りの継続に着目したサービスを提供します。

↓

年度初めに更新は出来たものの、施設生活に合わせる内容が多く、自分らしい暮らしぶりや個別を尊重した内容は薄かった。

- ② プライバシーや安全に配慮した環境を整え、心身共にリラックスできる入浴ケアを提供します。

↓

入居者の入れ替わりや、状態低下等にてリフト浴対象者が増えたが、マンツーマンでの対応で実施し、入浴時の事故もなく、リラックスできる入浴ケアの提供は行えた。

- ③ 入居者個々の排泄パターンを把握し、排泄用品や誘導時間、羞恥心、プライバシーに配慮した排泄ケアを提供します。

↓

状態変化時には排泄形態の変更や、介助法の変更なども早期に行えた。また、各居室トイレ

内の排泄用品ストックが統一できるように、補充方法を検討・実施した。

- ④ 入居者に対して、尊厳の心を持ち、会話の抑揚にも配慮し、丁寧な対応、謙虚で受容的な態度で接します。

↓

言葉遣いの大きな乱れはなく、全体的に丁寧な対応は出来ていたと思われる。

- ⑤ 入居者の整容・身嗜みケアを重視すると共に、担当入居者との関わりの意識を高め、衣類や私物等の管理も徹底します。

↓

担当職員の意識の差があり、特に衣類や私物管理に関しては、出来ている職員と、出来ない職員の差が見られた。

- ⑥ 季節感と潤いのある生活を目的とし、個人の希望に沿った外出支援や趣味活動、季節に応じた行事を行います。また、外出支援や行事開催は、感染対策に十分配慮した方法で実施します。

↓

今年度もコロナウイルスの影響で、外出行事は全く実施出来なかったが、年間行事に関しては、感染対策に十分配慮し、例年通りに実施出来た。

- ⑦ 日々の情報収集・提供を確実に行之、早期に課題発見・解決します。また、各職種との情報共有・連携を強化し、連続したケアを各職種協働で提供します。

↓

全職種がタブレットにて積極的に情報発信を行い、情報共有・連携は図れていた。

- ⑧ サービス評価(アンケート)を実施し、現状の課題や要望などについて検討・見直します。

↓

今年度はアンケートは実施出来なかった。

- ⑨ 業務の見直しを定期的に行い、効率化・職員の負担軽減・コスト削減等を意識した業務改善を積極的に行います。

↓

大きな業務改善は行わなかったが、効率化・職員の負担軽減を意識した細かな変更は随時行った。

(2)健康状態の維持管理

- ① 高齢者の特性を理解すると共に、各職種からの情報収集や心身の状態把握に努め、健康維持や安心・安全な生活が送れるよう支援します。

↓

タブレットからや各職種から情報収集を行い状態把握に努めた。

- ② 定期健診を実施し、健診結果を嘱託医と共に入居者・家族へ報告し、治療方針や高度医療の意向確認を行います。

↓

コロナの緊急事態宣言等により、定期健診が予定通りには施行できなかったが、期間のずれはあるが年1の定期健診は実施出来た。健診結果に変化が見られた利用者に対しては状態説明を行い、今後の治療方針や高度医療の希望の意向確認を行った。

- ③ 入居者の病歴・症状を把握し、急変時は速やかな対応を行います。また、状態変化時は、各職種と情報共有し、連携したケアを提供します。

↓

急変時は速やかな対応をおこなった。

- ④ 高まる医療ニーズに応じられるよう、受け入れ体制を整えます。

↓

事前情報をもとに予測される課題を検討し、各職種とも相談を行い、受け入れ体制を整えた。

(3)看取り期の円滑な提供

- ① 入居者・家族へ状態説明を行い、意向に沿ったケアを提供し、終末期の身体的・精神的負担軽減に努めます。

↓

終末期には、医師・看護師より家族が納得されるまで何度も説明を行った。家族へ負担軽減の為に家族との関わる機会を多く持つように心掛け、他職種とも情報を共有した。また、付き添いを希望されたご家族に対しては、感染対策の上、最期の時間を一緒に過ごしていただいた。

- ② 状態変化に応じて、職種間の連携を密に行い、ケアの充実を図ります。

↓

各職種との連携を図り統一したケアを行った。

- ③ プライベートの空間を活かしたケアを提供します。

↓

コロナ禍により面会の制限があり、ご家族がゆっくり過ごされることが難しかったが、入居者が家族とくつろげる空間作りに努めた。

(4)リスクマネジメントの徹底

- ① 各職種が専門分野における事故の予防や予見の視点を持ち、記録システム(タブレット)を活用し情報伝達・共有を徹底します。

↓

タブレットを通して、各職員が意識的に情報発信・共有した。

- ② ヒヤリハット報告書は、『事故を未然に防ぐツール』と認識し積極的に提出します。

↓

ヒヤリハット報告書の件数は少なかったが、タブレットにて情報伝達・共有は徹底で来ていた。

- ③ 入居者の状態や薬剤状況を把握し、薬関係の事故防止に努めます。

↓

年間を通して服薬関係の事故は0件だった。

- ④ 褥瘡予防委員会を中心に褥瘡リスクの意識を高めます。また、褥瘡予防アセスメントを活用し、日々の観察や予防対策等のケアの統一を図り、褥瘡ゼロを継続します。

↓

状態変化時等は、マットレスの早期変更や体交の実施、ワセリン塗布にて予防に努めた。

- ⑤ 身体拘束廃止・虐待防止への理解を深め、不適切なケアの改善や職員のストレスケア等の取り組みを推進します。

↓

新型コロナウイルス感染症対策に伴い、定期的な委員会活動は行えなかった。センサー機器については、入居者の状態変化などにより必要性に応じて設置・解除するよう努めた。

- ⑥ 定期的な防災・防犯の教育・訓練に積極的に参加し、有事の際の的確な行動に繋がります。

↓

新型コロナウイルス感染症対策に伴い訓練規模は縮小したが、年間計画に沿って参加した。

- ⑦ 苦情解決第三者委員に対して事故・苦情等の報告を行い、透明性のある運営を行います。

↓

意見箱への投函はなかった。報告会では、日常の相談・要望から報告した。また、入居者からの相談・要望については、できる限り早期対応しタブレットで情報共有した。

- ⑧ 施設賠償保険に加入し、事故発生時は誠意ある対応を行います。

↓

毎年度施設賠償保険に加入し、骨折等の事故に対する補償対応に備えているが、3年度はなかった。

(5) 感染症対策への取り組み

- ① 感染症対策委員会(内部・若杉の里合同)を通じて情報共有を図り、マニュアルの周知と的確な予防対策を行います。
- ② 職員の感染リスクに対する認識をしっかりと持ち、感染予防へ取り組みます(職場外も含む)。
- ③ 感染予防および拡大防止に資する清掃・環境整備等の衛生面への取り組みを徹底します。
- ④ 有事(疑い含む)の際は、迅速かつ適切に感染対策を講じます。また、有事に備え物品等を備蓄しておきます。
- ⑤ 県内や施設近隣の発生状況等を把握・共有します。

↓

新型コロナウイルス感染症対策を継続していたが、事業所内でスタッフ・入居者の感染が発症した。早い段階で感染対策強化(シールド・ガウンの使用、動線制限、更衣室の分別など)し、感染拡大には至らなかった。職場内外でも、職員個々の感染症対策意識は保たれていると思われる。

- ⑥ 「面会制限」に伴う入居者・家族への心理的負担に配慮した取り組みを実践します。

↓

感染動向に応じて、面会制限⇔一部緩和を行ってきた。制限中のご家族へのアプローチが課題である。

(6) ケアプラン及びカンファレンスの充実

- ① 24時間シートとケアプランとの連動性を図り、入居者が望む生活やサポート内容を明確にし、状態変化時は、随時更新します。
- ② カンファレンスを通して、職員・職種間の共通理解や意思統一を図ります。
- ③ 各職種が率先して入居者・家族との関係性を深め、生活に対する意向・思いを汲み取り、記録システム(タブレット)を活用し情報共有します。

↓

ケア内容のアナウンスなどタブレットを活用し情報発信・共有することができた。ご家族の面会が制限されるため、ご家族が本人の生活振りを把握しづらく、ご家族の意向も表面化しにくいと思われる。施設側からの積極的な情報提供が必要と思われる。

(7) 食事サービスの充実

- ① 栄養ケアマネジメント・カンファレンスを実施し、各職種からの情報提供・意見交換により、入居者個々の健康状態や身体状況・嗜好に沿った食事・形態・療養食・代替食品・補助食品を適宜検討します。

↓

月 1 回各職種と利用者の情報共有が出来た。適正な食事内容・食形態・代替食品(嗜好品)・補助食品を検討し、提供が行えた。

- ② 年間行事予定に基づいた行事食やユニット内での調理等を実施し、食欲や季節感を感じられる食事を提供します。

↓

年間行事予定に基づいて、行事食の実施が出来た。

新型コロナウイルス流行にて提供方法の変更を今年度も行った。食材費高騰により、出来る限り季節感や入居者に喜ばれる食事内容に努めた。

- ③ 嗜好調査や残食調査を実施し、献立に反映させ、満足度の向上を図ります。

↓

毎日の残食調査を実行し、献立に反映させ満足度の向上に繋げた。今後も継続し、満足度の向上に努めていきたい。

- ④ 定期的な給食委員会や連絡ノートを活用し、給食委託業者との連携・情報共有を図ります。

↓

新型コロナウイルスにて給食委員会が中止になることがあったが、資料配布を行った。
随時事故報告開示を行い、再発防止に努めた。
連絡ノートや毎日の食事形態表を活用することにより、給食委託会社との連携・情報共有を図った。

(8)安全なリハビリテーションの実施

- ① ケアカンファレンスや全職員研修会・申し送り等で、生活リハビリや廃用症候群について学び、全職員で継続した支援に取り組みます。
- ② 各職種と情報共有を密におこない、機能低下が予測される入居者へ集中した観察や生活支援を行います。また、必要時は、速やかに福祉用具の検討・導入を行い、適時、使用状況を確認します。
- ③ リハビリに関連した内容等は、各担当職員へ説明・伝達を行い、各入居者の生活動作の維持・低下防止に努めます。

↓

全職員研修会は出来なかったが、申し送りノートやタブレットを活用し、職員間での生活支援の統一や観察を実施した。

- ④ リハビリで使用する物品の管理や手入れを定期的に行い、安全にリハビリを実施します。

(9)適正な事務業務

- ① 介護保険に沿った介護請求、預り金・保険証等の管理を適正に行います。

↓

介護ソフトによるレセプト請求を行い、利用料未納者の把握・徴収を行った。
常に人員配置、加算要件の確認を行い、適正な事業運営を行った。

(10)住環境整備

- ① 個室ユニットの特性を活かした自分らしい暮らし振りや、生活空間としての快適性・利便性・安全性を追求し、課題は速やかに改善します。
- ↓
- 状態変化時や看取りになった際のレイアウト変更は速やかに対応出来た。
- ② 設備改修等が必要な場合は迅速に行い、安全な生活環境整備を行います。
 - ③ 衛生管理を徹底します(衛生マニュアルの確認と実施、腸内細菌検査の実施、ゴキブリ駆除、受水槽等の感染症予防等)。

↓

腸内細菌検査は月1回実施し、検査に問題はなかった。ゴキブリ駆除は業者に年4回実施し、常時は駆除具の設置を行った。受水槽清掃は、業者に年1回実施が出来た。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

(1)知識・技術、専門性の向上

- ① ユニットケアや介護保険制度の動向などの情報を収集し共有します。

↓

制度改正や新型コロナウイルス感染症の動向など、タイムリーで収集・共有した。

- ② 入居者の高齢化や重症化に伴い、より多くの知識や介護・看護技術を習得し、専門性の向上を図ります。
- ③ 各職種が専門職としての役割を自覚し、常に探究心や向上心を持ち、自己研鑽に努めます。
- ④ 年間研修計画に沿った内部研修や法人研修などに積極的に参加します。

↓

新型コロナウイルス感染症対策に伴い集合研修は行えなかった。動画視聴やオンライン研修など研修方法を工夫し行うこともあった。

(2)チームケアの推進

- ① 記録システム(タブレット)を活用し、共通理解のもと、統一したサービス提供を実践しチームワーク力を高めます。
- ② ユニット会議やカンファレンス、各専門委員会等を通して、各職種が共通認識のもと、ユニットケアや暮らしの視点を強化したケアを実践します。

↓

ユニット会議が殆ど開催できず、共通理解・共通認識を図るのが難しかった。

(3)職員の育成

- ① 各種資格取得及び資格更新に対する支援を行い、専門職としての資質向上を図ります。
- ② 人事考課制度による適切な評価を行い、昇給・昇格等キャリアアップへ繋がります。

(4)働きやすい職場環境作り

- ① 労基法に基づく健康診断・メンタルヘルスチェック及び予防接種の補助を行い、健康で働ける体制を支援します。
- ② 労基法、介護保険法等のコンプライアンス遵守体制を図り、明るく働きやすい職場環境作りを行います。
- ③ 職員採用に向けた求人活動を充実させ、また福利厚生等の見直しによる離職防止に向けた取組を行います。

↓

・職員検診、ストレスチェックを実施し、職員の健康管理及び検査等が必要な場合のフォロー体制を構築している。

・ホームページによる求人内容を充実させ、学生への求人活動を行うことで新卒者の確保、また職員紹介会社も利用しながら離職者の補充を行っている。新型コロナウイルス感染防止対策として互助会を中心とした忘年会が中止となり、施設内、法人内のコミュニケーションが図れない状況であった。

4. 地域貢献

(1)信頼関係の構築

- ① 運営推進会議を通して、入居者・家族、行政機関、地域住民の方々などと情報を共有し、風通しの良い施設作りに努めます。

↓

2ヶ月に1回の定期開催は行えたが、新型コロナウイルス感染症対策に伴い書面会議にとどまった。感染症の動向にもよるが、可能であれば対面会議を行いたい。

- ② 「ふくおかライフレスキュー事業」に積極的に参加します。

↓

ウェーブによる会議が主となり、可能な範囲で連絡会に参加した。

- ③ 地域行事への参加を通して、地域住民との交流を深めます。また、入居者の参加を検討し、実現に繋がります。

↓

新型コロナウイルス感染症対策に伴い、地域行事も中止が相次いだ。今後参加依頼があれば、積極的に参加する。

- ④ 自然災害時などは、福祉避難所としての機能を確保します。

↓

地域の防災訓練に拠点全体として参加した。今年度は事例がなかったが、避難所として依頼があった場合は積極的に対応する。

入居者状況

①入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	5
退居者数	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	5
月末在籍者数	14	13	14	14	15	16	16	17	17	17	17	15	15.42
月末在所者数	14	13	14	13	15	15	14	17	17	16	15	14	14.75
のべ入居者数	447	412	396	423	449	436	456	498	527	497	426	454	451.8
稼働率(%)	74.5	66.5	66	68.2	72.4	72.7	73.5	83	85	80.2	76.1	73.2	74.28

②月別要介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
要介護1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	
要介護2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
要介護3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	
要介護4	5	4	4	4	4	5	5	6	6	6	6	6	
要介護5	2	2	3	3	4	4	4	4	4	4	3	2	
合 計	14	13	14	14	15	16	16	17	17	17	17	15	
平均要介護度	3.14	3.08	3.21	3.21	3.33	3.38	3.38	3.41	3.41	3.41	3.41	3.33	

③年齢

令和4年3月31日現在

	男 性	女 性	全 体
最高年齢	96 歳	98 歳	98 歳
最小年齢	76 歳	84 歳	76 歳
平均年齢	86.3 歳	92.8 歳	90.2 歳

事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	4
座り込み、落床	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
誤嚥・誤飲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異 食 等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚のトラブル	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	4
配 薬 関 係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	1	0	0	2	0	1	1	3	0	1	0	9

苦情受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

月	日	行 事	入居者数
4	2	お花見弁当	全員
	6	福岡県知事不在者投票	8名
	26	選択食	全員
5	7	選択食	全員
	14	選択食	全員
6	14	選択食	全員
7	15	選択食	全員
8	4	納涼会	全員
	12	お盆法要(祭壇のみ)	
	18	選択食	全員
9	7	選択食	全員
	18	お彼岸法要(祭壇のみ)	
	20	敬老祝賀会	全員
10	6	選択食	全員
	26	選択食	全員
	27	衆議院議員不在者投票	10名
11	20	選択食	全員
	23	鍋の会	全員
12	7	入居者忘年会	全員
	10	火災・防犯訓練	
1	1	新年祝賀	全員
	10	鏡開き	全員
	25	選択食	全員
2	2	節分行事(写真撮影)	全員
	5	選択食	全員
	17	選択食	全員
3	3	ひな祭り	全員
	9	選択食	全員
	18	お彼岸法要(祭壇のみ)	
	29	選択食	全員

新型コロナウイルス感染症対策のため、外出行事などは中止する。
また、集団やフロア間の移動を伴う施設内行事についても、開催を
自粛したり、開催方法をフロアごとにする。

施設内研修実施状況

開催年月日	研 修 内 容	参加職種	参加人数
R3.4.23	令和3年度 事業計画説明会		
5.28	高齢者の特性と基礎看護、救急法 食中毒の予防と対策		
6.25	身体拘束廃止と虐待防止		
7.30	褥瘡予防と生活リハビリ		
8.27	コンプライアンスについて(外部講師)		
9.24	認知症ケア(外部講師)		
10.22～31	感染症予防と対策	各自で動画視聴	
11.20～30	身体拘束・リスクマネジメント	各自で動画視聴	
12.17	メンタルヘルス(オンライン)(外部講師)	全職員	20名
12.14、17	法人新職員研修(オンライン)	介護職員	従来型3名
R4.1.11、18、25	法人新職員研修(オンライン)	介護職員	従来型3名
2.25	令和3年度 事故報告・リスク検討会、身体拘束について		
3.25	令和2年度 委員会活動報告・サービス評価		
	新型コロナウイルス感染症対策のため、施設内研修は基本的に中止とし、資料配布のみとする。		

施設外研修実施状況

開催年月日	研 修 内 容	参加職種	参加人数
R3.12.1、8	キャリアアップ研修(オンライン)	相談員	アネックス1名

ボランティア来園状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個人													0 回
サークル指導													0 回
団体													0 回
延べ回数													0 回
延べ人数													0 人

※ 新型コロナウイルス感染予防対策のため受け入れ中止

実習受け入れ状況

期 間	学 校 名	人 数

※ 新型コロナウイルス感染予防対策のため受け入れ中止

令和3年度 恵昭園デイサービスセンター 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

(1) 安定した利用実績の達成

- ① 体験利用の受け入れを柔軟に対応し、介護状態にある全ての方を受け入れ、利用者及び家族の身体的・精神的負担の軽減に努めます。
- ② 担当ケアマネジャーへ定期的の実績や空き状況等を報告し、利用者確保へ繋がります(目標値:平均 20 名/日)。
- ③ ショートステイ(短期入所)と連携し、情報交換・共有による一貫したケアを実践し、安心して利用が出来るような環境を整え、利用定着に繋がります。
- ④ 法人本部と協力し広報・営業活動を行い、関係機関との信頼関係作り・ニーズ把握に努め、新規利用者の受け入れを積極的に行います。

↓

継続して、ショートステイとの連携を密に行い、双方の送迎での援助や迅速な情報提供にて受け入れ態勢の強化を図った。また、営業部門との連携も図り、毎月の空き状況の確認、居宅事業所へのモニタリング及びチラシ(恵昭園・若杉の里)の送付にて、営業活動を行う。しかし、入院や入所、新型コロナウイルスの影響にて、目標人数には及ばない結果となるが、徐々に問い合わせの連絡が増えてきている。

(2) 適正な予算管理

- ① 職員全員が事業所の収支状況を共有し、一人一人が健全な経営ができるよう収入増加、コスト削減の視点に立ち、サービスの見直しや業務の効率化を図ります。
- ② 予算に基づいた収入・支出を適正におこないます。

↓

・職員及び併設の恵昭園において新型コロナ感染により営業中止した影響もあり、一時的な稼働率が上がるも、年間平均となると収支バランスの取れる稼働に至らなかった。補正のたびに、収入の減額を行ってきたが、人件費の割合が多く、最終的に収支状況はマイナス決算となった。

・毎月のスタッフ会議、幹部会議において、稼働率、新規利用者の状況、収支状況を確認し、役職者の意識付け、及び他施設で参考となる事例等の情報収集を行った。

2. 高品質なサービスの提供

(1) 在宅生活維持の支援

- ① 利用者及び家族の意向と状況把握に努め、全ての利用者が可能な限り、在宅生活を継続できるように、通所介護計画に基づいたケアを実践します。
- ② 在宅での状況や身体状況を把握し、歩行訓練等の運動の機会を持ち、在宅生活継続に向けての支援を行います。
- ③ 利用者の健康状態を観察・把握し、連絡ノートの活用及び家族や担当ケアマネジャー・かかりつけ医との連携により、利用者の異常の早期発見・早期対応に努めます。
- ④ 利用者及び家族の相談に対し、丁寧且つ迅速な対応を行い、担当ケアマネジャーと連携し、利用者の在宅生活を支え、家族の介護負担軽減に繋がります。

↓

利用者の変化は、その都度連絡帳やモニタリングにて情報提供を行う。緊急を要する場合や直接問い合わせがある場合は、電話にて報告・相談を行う。家族の希望にて、早めのお迎えや、延長も柔軟に対応を行う。機能訓練加算は算定していないが、毎日3回の全体体操や、希望がある方への運動を積極的に実施している。上記内容から、家族の介護負担軽減や在宅生活継続に向けて支援を行っている。

(2) サービスの充実

- ① 利用者・家族への満足度アンケートを実施し、サービスの改善に繋がります。
- ② 一人ひとりのケア内容を正確に把握し、職員間で統一したサービスを提供します。また、月1回の通所会議で評価を行います。
- ③ 認知症ケアの基礎的な理解のもと、各利用者へのケアを検討し、思いやりのある接遇を目指します。
- ④ 利用者個々の要望に基づき、身体機能の維持・向上や口腔機能の向上等、積極的な取り組みを行います。
- ⑤ 利用者の個性を重視し、多様化したニーズに応えられるように、創作活動や運動・おやつ作り等の意欲が高まる活動を提供し、利用者の活性化に繋がるようにします。
- ⑥ 業務改善に向けて、手書きでの作業からパソコン入力へ移行し、軽作業の削減・時間短縮・用紙削減等の作業効率の向上を図ります。

↓

毎月のモニタリングにて、満足度の確認を行い、ご要望があった際は迅速に返答を行い、サービス内容の変更を行っている。新型コロナウイルスの影響にて、通所会議が行えない時が多かったが、職員間での情報共有を細めに行っている。また、必要と判断した場合は、短時間の通所会議を実施し、業務改善に向けての取り組みについて話し合いを行う。事務作業が多く、また、手書きでの作業が多いこともあり、改善には至らなかった。

(3) リスクマネジメントの徹底

- ① 事故を未然に防ぐため、必要な介護技術の向上や安全に介助が出来る方法を習得し、実践に繋がります。
- ② ヒヤリハットや気づいた事項を職員間で共有し、事故防止や業務の見直しに活用します。
- ③ 事故発生毎にカンファレンスを開催し、事故分析を的確に行い、改善策を周知徹底のもと、速やかに実践します。
- ④ 苦情解決第三者委員に対して事故・苦情等の報告を行い、透明性のある運営を行います。
- ⑤ 施設賠償保険に加入し、事故発生時は誠意ある対応を行います。
- ⑥ 定期的な防災・防犯の教育・訓練に積極的に参加し、有事の際の的確な言動に繋がります。

↓

年2回の消防訓練、地震・土砂災害対応訓練、防犯訓練を実施し、常日頃スムーズに鼓動できるよう非常時対応の再確認等を行った。

年2回の第三者委員に対する「苦情、日頃の利用者・家族からの要望に対する対応状況、事故報告」等を行い、施設対応への意見を頂いた。

毎年度、施設内事故に対する賠償保険に加入し、骨折等の入院費・見舞金が発生した場合の対応を行った。

(4) 感染症対策への取り組み

- ① 感染症対策の基本となる『感染源の排除』・『感染経路の遮断』・『利用者の健康状態の把握』を念頭に、環境整備を強化した感染症対策を行います。
- ② 近隣地域での感染状況の把握に努め、利用者・家族・職員への注意喚起を行います。
 - ・座席配置の検討
 - ・マスク使用の促進(感染拡大時は、利用者・家族へのサージカルマスクの使用を促す)

- ・午前・午後の検温の実施
- ・黙食
- ・来所時、昼食前、おやつ前の手洗い消毒の徹底
- ・使用物品の細めな消毒

↓

毎日のヒヤリハット報告にて、各利用者の注意点や今後の対応等、職員間での意識統一を図った。感染対策では、細めな検温や利用者・家族への聞き取り、消毒作業など毎日実施している。利用者によっては、マスクを外される方や、会話を好んで話される方もいる為、不十分などところもあるが、その都度注意喚起を行っている。

(5)適正な事務業務

- ① 介護保険に沿った介護請求を適正に行います。

↓

介護ソフトによるレセプト請求を行い、利用料未納者の把握・徴収を行った。
常に人員配置、加算要件の確認を行い、適正な事業運営を行った。

(6)住環境整備

- ① 生活環境としての快適性・利便性・安全性を追求し、必要な対策を速やかに行います。
- ② 職員一人一人が環境美化に努め、生活の場としてふさわしい空間とします。
- ③ 老朽化している設備の改修を行い、安全な生活環境整備を行います。
- ④ 衛生管理を徹底します(衛生マニュアルの確認と実施、ゴキブリ駆除、受水槽等の感染症予防等)。

↓

雨漏り・雨漏りによる電気使用の制限・ムカデ等、住環境に不十分な所が多々見られた。利用者希望にて、BSテレビの設置を行い、ご利用中の楽しみがひとつ増える事となった。
年2回の全館消毒、受水槽の清掃等適正に行い、特に問題点はなかった。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

(1)就労意欲の維持

- ① 採用時は「新職員マニュアル」に基づき、個人の理解度・達成度に応じた指導を行います。
- ② 定期的に面談を行い、不安や疑問を早期解決し、やる気や向上心の継続を図ります。
- ③ 専門職や役職に関わらず、業務の振り分け・交代制を実践し、全職員で業務把握と職員個人の負担軽減を行います。

↓

・定期的な個人面談は実施できなかった。
・事業所内で、業務負担の見直しを行い時間外の抑制を図った。

(2)専門性の研鑽

- ① 法人理念を理解し、職員としての心構えを各職員が自覚し、定期的な自己評価を行います。
- ② 内部研修に積極的に参加します。
- ③ 法人研修委員会主催の研修会に積極的に参加します。
- ④ 各種資格取得及び資格更新に対する支援を行い、専門職としての資質向上を図ります。
- ⑤ 人事考課制度による適切な評価を行い、昇給・昇格等キャリアアップへ繋がります。
- ⑥ 労基法に基づく健康診断、メンタルヘルスチェック及び予防接種の補助を行い、健康で働ける体制を支援します。
- ⑦ 労基法、介護保険法等のコンプライアンス遵守体制を図り、明るく働きやすい職場環境作りを行います。
- ⑧ 職員採用に向けた求人活動を充実させ、また福利厚生等の見直しによる離職防止に向けた取組を行います。

↓

- ・職場環境が良く、離職する職員が少ない。また、職員の紹介から、迅速な人員確保も行えている。職員間での関係性が、利用者・家族にも印象が良く伝わり、サービスの質の向上に繋がっている。
- ・労働安全法に基づく職員検診、ストレスチェックを適正に実施し、日頃の健康チェックを行っている。

4. 地域貢献

(1) 信頼関係の構築

- ① 地域の行事や催し物に積極的に参加します。
- ② 地域の公民館活動などに参加し、地域の方々へ介護情報の提供を行う機会を企画します。
- ③ 利用者家族に対して、在宅生活場面での介護方法などについて、学習の機会を企画します。

↓

コロナ渦で、3年度も地域行事が中止になっていることで参加は行えなかった。

利用者状況一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
通所介護	220	191	310	304	300	325	361	369	336	284	239	258	3,497
予防通所介護	60	47	71	81	87	89	113	99	98	94	80	105	1,024
平均人数	14.7	13.2	14.7	14.3	14.9	15.7	18.2	18	16.1	15.1	14.5	14.5	
営業日数	19	18	26	27	26	26	26	26	27	25	22	27	295

通所介護

要介護度別人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	11	10	14	15	11	17	14	14	13	11	10	12	152
要介護2	8	8	12	8	8	9	8	10	9	5	5	5	95
要介護3	4	2	2	3	2	7	4	4	3	3	4	2	40
要介護4	1	1	1	2	2	3	3	4	3	3	3	2	28
要介護5	1	1	2	2	2	4	3	3	3	3	2	3	29
合計	25	22	31	30	25	40	32	35	31	25	24	24	344
平均要介護度	2	2	2	2	1.9	2.2	2.6	2.7	2.5	2.3	2.1	1.9	26.2

単位別実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3-4(1)	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
3-4(2)	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
3-4(3)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3-4(4)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4-5(1)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
4-5(2)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
4-5(3)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
4-5(4)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
4-5(5)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5-6(1)	3	2	4	2	2	3	2	3	6	2	2	1	32
5-6(2)	38	38	50	39	29	22	17	17	16	17	15	18	316
5-6(3)	31	21	29	31	30	28	30	29	31	29	23	30	342
5-6(4)	10	12	16	17	17	14	17	16	18	16	14	0	167
5-6(5)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6-7(1)	0	0	19	3	0	6	0	0	0	0	0	1	29
6-7(2)	0	0	0	0	2	2	2	1	1	0	0	0	8
6-7(3)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
6-7(4)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
6-7(5)	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
要介護1	99	82	111	114	116	124	143	147	136	122	95	113	1402
要介護2	28	30	59	50	51	51	58	79	54	30	32	44	566
要介護3	6	0	0	21	20	36	40	24	19	18	19	0	203
要介護4	0	0	0	3	5	7	15	19	21	19	17	15	121
要介護5	5	6	19	20	28	27	37	33	34	31	22	36	298
合計	220	191	310	304	300	325	361	369	336	284	239	258	3497

予防通所介護

要支援別人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援 1	5	4	5	6	5	7	7	8	8	8	8	7	78
要支援 2	7	6	6	7	8	6	6	8	8	9	7	10	88
合計	12	10	11	13	13	13	13	16	16	17	15	17	166

要支援別実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援 1	23	18	32	38	36	39	43	42	42	52	40	38	443
要支援 2	37	29	39	43	51	50	70	53	56	46	44	67	585
合計	60	47	71	81	87	89	113	95	98	98	84	105	1028

各種サービス状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用(介護)	3	1	1	1	1	3	4	0	0	0	2	2	18
体験利用(介護)	2	1	1	1	1	2	1	0	0	0	1	3	13
新規利用(予防)	0	0	0	2	2	2	0	1	0	1	0	1	9
体験利用(予防)	0	0	0	2	1	3	0	1	1	0	0	2	10
提供加算(介護)	220	191	310	304	300	325	361	369	336	284	239	258	3,497
提供加算(支援1)	5	4	5	6	5	7	7	8	8	8	8	7	78
提供加算(支援2)	7	6	6	7	8	6	6	8	8	9	7	10	88
予防運動器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入浴	168	149	227	218	209	243	272	287	252	215	175	179	2,594
個別機能訓練	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食材費(昼)	220	191	310	304	300	325	361	369	330	284	239	258	3,491
食材費(夕)	0	10	21	22	20	36	43	26	19	18	18	1	234
送迎減算	0	0	4	4	3	1	3	3	2	1	0	0	21
延長利用	0	0	0	1	0	0	9	6	0	0	0	3	19

事故

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	6

行事報告

月	日	行事名	利用者数
4	20	お茶会	17
	21	お茶会	11
	22	お茶会	10
5		新型コロナウイルス感染拡大防止の為、未実施	
6	23	フラワーアレンジメント	14
	24	フラワーアレンジメント	14
7	12	スイカ割り	17
	13	スイカ割り	18
8	23	夏祭り	13
	24	夏祭り	17
9	20	敬老会	18
	21	敬老会	20
10 11	30	コスモス見学	14
	1	コスモス見学	15
	2	コスモス見学	2
	3	コスモス見学	4
	4	コスモス見学	3
11	9	創作	17
	10	創作	15
12	6	忘年会	14
	7	忘年会	20
	8	忘年会	20
1	5	絵馬作成	18
		後日、未実施の方、利用時に実施	
2	7	節分	16
	8	節分	15
3	25	花見	17
	26	花見	6
	28	花見	7
	29	花見	2

実習・ボランティア

月	日	団体名	人数

※ 新型コロナ感染予防対策のため受け入れ中止

令和 3年度 介護老人保健施設若杉の里 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

(1) 利用者確保に努める

- ① 医療機関、居宅介護支援事業所等各関係機関を定期的に訪問し、事業所特性や状況、空床状況等を知らせ、紹介率アップを図ります。

また、これまで訪問してきた事業所のみにとどまらず、新しい訪問先等も検討し、幅広い関係作りに努めます。

↓

各事業所等関係機関からの相談時には入院期限や緊急度等を確認しながら、入所までのプロセスを調整し、紹介率アップを図ったが、新型コロナウイルスの影響により、紹介率アップを図ることはできなかった。医療機関・ケアマネへの直接訪問から各種資料の郵送に切替「利用状況、行事の紹介」を行いながら、引き続き利用者確保を図る。

- ② 法人内他事業所との連携を図ります。特に養護老人ホーム双葉の定員変更に伴う利用者転居がスムーズに行えるよう最大限の協力をします。

↓

随時、情報交換を行ってきた。一部、入所受け入れが困難な場合は、理由、状況等をきちんと伝え対応してきたが、新型コロナウイルスの影響により、入所の受け皿になることは、困難であった。養護老人ホーム双葉利用者の入所に対し、施設間の情報共有を図り受け入れを行った。

- ③ 初回相談から入所までのプロセスをできるだけ短縮できるよう調整を行います。

↓

業務スケジュール等を調整しながら空床期間の短縮を図ったが、新型コロナウイルスの影響により、入所までつながらないケースが多かった。

- ④ 入所希望者の緊急性や状況を把握し柔軟な対応を行います。

↓

対象者の緊急性や状況を把握し柔軟な対応を心掛けたが、新型コロナウイルス流行の影響により、情報収集、柔軟な対応を行うことが困難であった。

- ⑤ 施設全体で毎月の収支状況の情報を共有し、予算に対する適正な支出及び執行状況の把握を行います。

↓

幹部会議において毎月の利用状況・収支状況を把握し、適切な補正等を行いながら支出の執行を行った。

2. 高品質なサービスの提供

- (1) 利用者・家族の個別性を理解し、個々の安全・安楽な施設生活を保障する。

- ① 入所前面接では、心身状況と共に、これまでの生活スタイル、環境等など個性を引き出せるよう情報収集をするとともに、関係職種にて情報共有に努めます。

↓

新型コロナウイルス拡大の影響により、入所面談自体が行うことが困難であったが、電話等での聞き取りを行い、情報共有に努めたが、詳細に情報収集を行うことは出来なかった。

- ② 各々が専門性を常に意識し、多職種との連携を密にし、利用者の望む生活を提供します。また、

利用者の心身の状態把握に努め、自律を支援するサービスを提供します。

↓

多職種との、情報交換に努めると共に、利用者へ生活に関する情報収集に努め、状態変化時は、速やかにカンファレンスを実施し、提供サービスの変更を行ったが、利用者が望む生活、自立した生活を、全ての生活場面において新型コロナウイルスの影響により、利用者が望む生活を、提供することはできなかった。

- ③ 個別性のあるケアプランの立案とアセスメント記録の充実を図り、質の高いサービスを提供できるよう努めます。

↓

利用者個々のニーズを生かした生活をめざし、個別性を生かしたケアプランを意識してきた。プラン作成時の担当者会議において、新型コロナウイルスの影響も視野に、各専門職の連携を図ってきた。

- ④ ターミナルケアの理解を深め、その人らしい最期を迎えることができるよう努めます。

・終末期における治療方針の理解と情報共有を行います。

↓

病状悪化の段階で施設医師の見解を確認のうえ、ご家族には、新型コロナウイルスの感染に伴い、電話での対応を行ったが、対面での説明が必要なケースでは、感染症対策を行い、来所を促しインフォームドコンセントの機会を設定し、看護、介護職員だけではなく、多職種共に情報共有している。

・対象およびご家族に寄り添う姿勢の堅持と、チームコンセプトの確立を行います。

↓

ベッド状況によるところはあるが、ターミナル期はできるだけ個室環境とし、ご家族休息用のソファやベッドを準備するなど行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、利用者・ご家族に満足していただける、ターミナルケアを提供することはできなかった。

・終末期の利用者・ご家族へ支援内容を常に検討し、統一したアプローチを行います。

↓

新型コロナウイルスの流行の中であっても、利用者個々のニーズを生かした生活をめざし個別性を生かしたケアプランを意識してきた。プラン作成時の担当者会議において、各専門職の連携を図り、統一した、アプローチを行った。

- ⑤ 状態・病状等の変化に伴うインフォームドコンセントの実施と明確な記録を行います。

↓

新型コロナウイルス感染を考慮し、初回のインフォームドコンセントは適切な時期に実施できていると感じる。記録については、日々の記録、プランに沿った記録、インフォームドコンセント実施時の記録ともに詳細に残すよう心掛けてきた。

- ⑥ 利用者、ご家族が抱えている潜在的なニーズを引き出せるよう意図的な関わりを意識します。また、苦情・要望等に対しては真摯に受け止め、施設全体で解決に向け努力します。

↓

利用者、ご家族が抱えている潜在的なニーズを引き出せるよう意図的な関わりを行うよう予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、意図的なかわりかは、行えなかった。利用者・ご家族からの、苦情・要望には、施設全体の問題として、解決に向けて取り組んだ。

- ⑦ 介護ロボットの導入により、日頃の健康管理、及び状態悪化維持迅速な対応を図ります。

↓

介護ロボットの導入を前提に、デモは実施したが実際の導入は行わなかった。

- (2) 本人らしい生活が送れるようADLに沿ったリハビリに取り組む。

- ① ポジショニング・シーティングを行い、安楽・快適な姿勢(肢位)を提供し、各ADL場面でのアプローチを行います。

- ↓
- 写真の掲示や定期的な見直しを行い提供できているが、各フロアーにおいての統一・定着は不十分な面があり今後も指導の継続が必須である。
- ② 認知症予防や進行防止に対するアプローチを行います。(レク・作業活動・集団活動・回想法)
- ↓
- 脳トレ問題の提供や棒体操・レクリエーション等実施し定着してきており今後も継続していく。
- ③ 個々の生活歴や生活様式を踏まえたアプローチを行います。
- ↓
- 各フロアーへの業務協力により個々の生活場面におけるリハビリが提供できており、今後も継続していく。
- ④ 各部署との情報共有を図り、ケアプランと連動するアプローチを行います。
- ↓
- ケアカンファや各種カンファへの参加を行い、統一した目標に向けてのリハビリが実施できた。
- (3) 食生活の質を高める。
- ① 多職種からの情報提供により、利用者の状態に合わせて、栄養補助食品を積極的に取り入れ、栄養状態の改善を行います。
- ↓
- 利用者個々の健康状態・身体状況を把握し、多職種と情報共有した。
適正な食事内容・食形態・代替食(嗜好品)・補助食品を提供した。
日々進歩している、栄養補助食品を検討し積極的に取り入れ利用者の喫食率を向上させた。
- ② 利用者、家族、職員と意見交換を行い、栄養ケアマネジメントを実施し、利用者の健康状態、身体状況に合わせた食事を提供します。
- ↓
- 各階カンファレンスにて、利用者の食事摂取量、状態把握・食形態の適正化を行い、利用者のニーズに沿える食事提供を心掛けた。又、ご家族には、入所時は対面での情報修を行ったが、入所後に情報が必要な場合には、新型コロナウイルス感染症対策として、電話での聞き取りを行った。残食調査・身体状況の把握・嚥下状態の把握・経管栄養の注入量を把握した。
- ③ 年間行事計画を立て、季節感、彩り考慮した食事メニューの充実を図ります。
- ↓
- 計画通り実施出来た。適切な食器の選択や季節感・食材の選択・彩や硬さに十分考慮した調理・盛り付けを工夫し、食事サービスの向上に努めた。
- ④ 行事食にお品書きを作成し、雰囲気づくりに努めます。
- ↓
- 年間を通じた行事等に対する食事メニュー・雰囲気作り・使用食器の選択を検討し、行事食でのお品書きを配布した。
- ⑤ 適時適温に心掛けます。
- ↓
- 適温配膳に心掛けた。
- ⑥ 毎日の食事形態表及び食事摂取表の作成と集計を行います。
- ↓
- 実施出来た。
- ⑦ 定期的に給食委員会を開催し、厨房内の業務報告、意見交換会を実施します。(給食委託業者を含む)
- ↓
- 新型コロナウイルス感染にて委員会は開催出来ないことが多かったが、資料配布を行い必

要時には意見交換を行った。

(4) リスクマネジメントに対する意識強化と取り組み

- ① リスク防止に対し、常に最新の情報収集に努め、リスクマネジメントマニュアルの見直しを行います。

↓

情報収集に努め、状況に合わせ、見直しを行った。

- ② 事故事例のアセスメント能力を高め、原因追究姿勢を堅持し事故再発防止に努めます。

↓

事故カンファ等において、スタッフ個々の気づきを全体で共有し、多角的な方面からアセスメントをし、原因追究に努めた。

- ③ ご家族への適切なインフォームドコンセントを行い、予防カンファレンスを開催します。カンファレンスは各職種の参加を前提とし、状態把握、情報の共有に努めます。

↓

ご家族へのインフォームドコンセントは、新型コロナウイルスの影響により、対面での実施はできなかったが、電話で実施した。予防カンファレンスの実施は、以前より行っているが、充分とはいえないので、今後も継続課題とする。

- ④ 物品・備品の安全点検・修理を定期的に行います。

↓

定期的とはいえないが、できる限りで実施している。緊急を要する場合は随時対応した。

- ⑤ リハビリ実施時における人数調整や工夫を行います。また、リハビリ室の整理整頓を行い事故防止に取り組みます。

↓

リハビリの実施時は、ソーシャルディスタンスを意識し実施した。リハビリ室の整理整頓は行った。

- ⑥ 厨房内のミーティングに参加し、衛生マニュアルの確認と確実な実施への指導を行います。

↓

ミーティングには積極的に参加し、情報の共有、衛生マニュアル実施の指導に努めた。

- ⑦ リスク防止のため、正確に確認作業のマニュアルの作成を行います。

↓

事故事例に対しては、その都度、要因分析等を行い、同じ事故が繰り返されないよう、マニュアル等を見直した。

- ⑧ ゴキブリ駆除・排水溝清掃を定期的の実施します。また、厨房職員の月1回の検便を確実にします。

↓

年4回の消毒、排水溝等の洗浄を行った。特にゴキブリ等の害虫は発生しなかった。

- ⑨ 毎食配膳チェックを行い、配膳ミスを予防します。

↓

配膳ミスの事例があった。その都度、要因及び対策を検討してきた。今後も継続課題とし、ミスゼロを目指す。

- ⑩ 介護報酬・利用料請求時のチェックを確実にし、請求ミスがないように努めます。

↓

介護ソフトを活用しミスなく実施できている。また利用料未納者の把握を行い

- ⑪ 行政主催等で実施されるリスクマネジメントの外部研修に積極的に職員を参加させ、研修内容については、他職員に伝達する機会を設けるなどし、情報等を職員間で共有します。

↓

新型コロナウイルス感染症の発症により、外部研修には参加できなかった。

- ⑪ 事故発生時の施設賠償保険対応を適切に行います。

↓

毎年施設賠償保険に加入しており、骨折等の施設賠償に該当する場合は、医療費等の対応を行った。

(5) 感染予防に対する取り組み

- ① 感染対策マニュアルについては、日々の医療情勢に応じて柔軟に改訂・改善していきます。また、マニュアルについては、全職員が理解し、業務遂行できるようにします。

↓

感染症対策マニュアルは、最新情報の収集を行い、必要に応じ適宜変更を行った。マニュアルの理解については、各職員の理解度確認を行ったが、職員により理解度に差がある為、引き続き指導を継続する。

- ② 感染症対策に対する意識の啓発・安全に業務を遂行する技能・チーム医療の一員としての意識向上を図るために、恵昭園との合同研修を年間2回以上行います。

↓

新型コロナウイルス感染症の発症により、合同研修は実施できなかった。

- ③ 定期的に感染対策委員会を開催し、感染症予防に努めます。また、万が一、感染症が疑われる状況が発生した場合は、速やかに恵昭園との合同臨時感染対策委員会を招集し、拡大防止に全力を注ぎます。

↓

感染対策委員会は、定期・臨時など必要に応じ開催した。恵昭園職員へも参加の依頼を行った。

- ④ 行政主催等で実施される感染予防対策の外部研修に積極的に職員を参加させ、研修内容については、他職員に伝達する機会を設けるなどし、タイムリーな情報等を職員間で共有します。

↓

新型コロナウイルス感染症の発症により、外部研修には参加できなかった。

- ⑤ 高齢者施設職員としての自覚を持ち、日常的な感染予防に努めます。

↓

施設職員として、業務中だけではなく、家庭内など日常生活場面など、常に感染防止に努めた。

- ⑥ 新型コロナウイルス感染予防対策に重点を置き備品・消耗品の確保、ワクチン接種、家族面会の制限等、近隣の情報収集を行いながらリアルタイムに対策を行います。また、施設内で感染が判明した場合を想定した BCP(業務継続計画)の見直し等、感染拡大予防対策、サービス提供の確保を図ります。

↓

感染防止委員会において、感染症予防対策に必要な備品・消耗品の確保、ワクチン接種、家族面会の制限等、不足物品の購入依頼、面会の条件確認を行い適切な対応を行った。

(6) 業務の効率化・改善への取り組み

- ① 利用者サービスの向上にむけて、勤務スケジュール等を適宜見直すなど、効率的な業務遂行ができるよう努力します。

↓

新型コロナウイルス感染予防を実施すると共に、利用者へのサービス低下を招かないように、サービス提供方法の見直しを随時実施した。

- ② 記録の内容、仕方、その他の業務内容の見直しを行い、サービスの質は担保されながらも、業務時間及び費用の省力化・効率化を図れるように努力します。

↓

新型コロナウイルス感染予防を実施すると共に、利用者へのサービス低下を招かないように、サービス提供方法の見直しを随時実施した。

(7) 非常時の対応

- ① 災害を想定した定期的な避難訓練、不審者侵入に対する防犯訓練等を行い、利用者の安全確保を行います。

↓

年2回の避難訓練、年1回の土砂災害及び地震想定の実施訓練を行い、非常時の迅速な判断と避難対応ができるよう行った。

(8) 衛生管理

- ① 各種法令に対する衛生管理(水質管理、残留塩素等)を定期的に行います。

↓

毎月の水質検査、週1回の循環風呂の清掃、毎日の残留塩素チェック・配管の清掃、年1回の受水槽の清掃を適正に行った。また年2回の施設内消毒、年4回の厨房消毒を行い、ゴキブリ等の害虫駆除をおこなった。特にレジオネラ菌等の検出はなかった。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ① 法人研修に参加し、キャリアパスとの連動を図ります。

↓

新型コロナの影響があり、法人研修は実施されなかった。
キャリアパスとの連動については、引き続き課題である。

- ② OJTとリンクしたOFF-JTの実践と検証を行います。

↓

OJTは状況にあった指導を行った。OFF-JTは、新型コロナウイルスの影響により、参加出来なかった。

- ③ 副主任、リーダーを中心としたOJTを積極的に推進します。

↓

スタッフ数が充足していない現状の中でも、できる限りの指導を行っている。特に、新規職員については、指導職員と役職者が連携を図りながら対応した。

- ④ 実践的な感染予防研修を実施します。

↓

新型コロナウイルス感染の影響により、資料配布のみで対応した。

- ⑤ 成年後見制度、日常生活自立支援事業、介護保険制度等、支援に必要な知識の習得、向上に努めます。また、施設外研修の情報等を収集し、積極的に参加を図り、知識の向上に努めます。

↓

業務遂行にあたり、不明な点については正確な情報を確認するなど対応している。

- ⑥ 各介助場面における技術・ボディメカニクスの指導を行います。

↓

適宜、状況に応じて実践している。

- ⑦ 新人職員へ定期的な面談を行い、精神的フォローを行います。

↓

個々の状況によって、役職者、指導者等による面談を実施しているが、定期的とはいえず、どうしても、問題があった時の対応になりがちであった。
今後の課題として、定期的に面談ができる体制を作り、起こった問題の解決を行うことはもちろんであるが、問題が起こらないよう予防対策講じていく。

- ⑧ パワーハラスメント、セクシャルハラスメント等が起こらないよう、情報収集を行い、働きやす

い職場環境を整えます。



パワーハラスメント、セクシャルハラスメント等が起こらないよう、職員の動向に目を配り、情報収集も行い、働きやすい職場環境作りに努めた。

- ⑨ 資格取得のための支援(なのくにケアスクール等の受講料補助、受験日の勤務調整等)を行い全体のスキルアップを図ります。



なのくにケアスクールの「実務者養成研修、初任者研修」の受講を支援し、EPA 介護福祉士候補生1名が無事合格した。

- ⑩ 退職者に対する職員採用を図り、労働負担の軽減に努めます丸。



ホームページによる求人内容を充実、高校、専門学校等への求人活動を行うことで、新卒者、中途採用者の確保、また職員紹介会社も利用しながら、職員不足の解消を行っている。

- ⑪ 労働基準法等の制度改正に対応した適正な労働環境の確保に努めます。



年2回の健康診断、年1回のストレスチェックを行い、インフルエンザワクチンの接種料を補助、新型コロナワクチンの接種支援等を行い、体調不良時の勤務スケジュールの変更を柔軟に行った。

- ⑫ ライフスタイルに合わせた勤務形態、ダブルワーク行っているパート職員の採用等、多様な働き方に対する取り組みをおこないます。



勤務希望時間に合わせたパート職員の採用を行い、常勤職員不足の補充対応を行った。しかし、多様な働き方への検討は行われず、今後の検討課題となった。

4. 地域貢献

(1) 地域社会への支援

- ① 町や小地域ごとの介護予防事業等への継続的な参加を行います。(地域包括ケアシステムとの関わり)



1回のみ参加したがその後は、新型コロナウイルス感染症の発症により参加できていない。

- ② 須恵町地域連携の会・地域ケア会議への参加を行います。



1回のみ参加したがその後は、新型コロナウイルス感染症の発症により参加できていない。

- ③ 須恵町社会福祉協議会主催の中学生福祉体験サマースクールの受け入れを行います。



担当施設ではないため、今年度は受け入れは実施せず。

- ④ 地域ミニデイサービス及び地域防災訓練に参加し、地域とのつながりを大切にします。



1回のみ実施したがその後は、新型コロナウイルス感染症の発症により行えていない。

- ⑤ 福岡レスキュー事業への理解を深め、活動します。



連絡会には参加した。活動は新型コロナウイルス感染症の発症により行えていない。

利用者状況

①入退所状況

※短期入所療養介護利用者含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
長期・入所者数	2	0	3	3	1	3	5	2	6	1	3	4	33
短期・入所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
長期・退所者数	0	1	3	2	2	4	3	5	3	2	3	6	34
短期・退所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
月末在籍者数	89	88	88	89	88	87	89	86	89	88	88	86	
述べ利用者数	2645	2754	2656	2746	2713	2659	2707	2586	2661	2724	2475	2658	31984
稼働率	88.2	88.8	88.5	88.6	87.5	88.6	87.3	86.2	85.8	87.9	88.4	85.7	87.6

②月別要介護度

※短期入所療養介護利用者を除く

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	16	16	16	17	17	16	16	16	17	18	18	19
要介護2	18	18	18	18	19	18	19	19	21	20	22	21
要介護3	23	23	22	22	22	22	23	22	23	23	22	19
要介護4	15	14	15	15	13	14	14	13	13	13	12	13
要介護5	17	17	17	17	17	17	17	16	15	14	14	14
合計	89	88	88	89	88	87	89	86	89	88	88	86
平均要介護度	2.99	2.98	2.99	2.97	2.93	2.98	2.97	2.93	2.87	2.83	2.80	2.79

③年齢

令和4年3月31日

	男 性	女 性	全 体
最高年齢	96歳	101歳	101歳
最低年齢	74歳	64歳	64歳
平均年齢	85.7歳	88.4歳	88.0歳

事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	1	2	1	1	0	1	1	1	0	0	3	0	11
座り込み、落床	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1		2	6
誤嚥・誤飲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食等	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
皮膚のトラブル	1	1	2	2	1	0	0	0	0	0	1	0	8
配薬関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
合計	2	3	4	3	1	1	3	2	1	1	5	3	29

苦情受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

利用者通院状況(訪問歯科・往診を含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	2	1	1	0	0	1	2	0	0	0	0	3	10
外科	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
整形外科	1	2	1	1	0	3	1	1	2	0	1	0	13
歯科	16	3	3	3	0	0	0	8	5	2	0	5	45
眼科	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	6
耳鼻科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	21	7	5	5	1	5	4	12	8	3	3	9	83

利用者リハビリ実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個別訓練(述べ)	740	709	691	699	721	674	731	706	726	679	650	711	8,437
集団体操	588	637	583	694	622	672	581	574	680	525	534	686	7,376
レクリエーション	208	180	220	207	206	186	224	193	197	195	194	216	2,426
合計	1,536	1,526	1,494	1,600	1,549	1,532	1,536	1,473	1,603	1,399	1,378	1,613	18,239

行事実施状況

月	日	行 事	対象階
4	5	喫茶会	4階
	15	ミニドライブ	2階
	17	茶話会	全階
5	15	茶話会	全階
	26	おやつ作り	3階
6	10	喫茶会	4階
	17	室内運動会	3階
	19	茶話会	全階
	15	大喫茶会	2階
7	5	喫茶会	4階
	8	夏祭り	2階
	17	茶話会	全階
	19	夏祭り	3階
	22	夏祭り	4階
8	2	喫茶会	4階
	21	茶話会	全階
	23	大映画祭	3階
9	6	喫茶会	4階
	9	おやつ作り	2階
	18	茶話会	全階
	28	寿老の集い	全階
10	4	喫茶会	4階
	4	おやつ作り	3階
	16	茶話会	全階
	21	大喫茶会	2階
11	1	喫茶会	4階
	20, 21	茶話会	全階
12	9	利用者忘年会	2階、4階
	13	利用者忘年会	3階
	13	喫茶会	4階
	18, 19	茶話会	全階
1	1	新年祝賀式	全階
	6	初詣	3階
	11	鏡開き	全階
	16	茶話会	全階
	17	初詣	4階
	24	喫茶会	4階
2	3	節分	全階
	3	喫茶会	4階
	17	大喫茶会	2階
	20	茶話会	全階
3	3	ひな祭り(行事食)	全階
	7	喫茶会	4階
	20	茶話会	全階

※誕生会は、ご利用者の誕生日に随時実施した。

※今年度は、新型コロナウイルス感染症対策にて、外出行事の大部分が実施できなかった。

また、施設内行事についても、感染対策を講じながら実施した。

施設内研修実施状況

開催年月日	研 修 内 容	参加職種	参加人数
R3.11.29	感染防止・食中毒予防について	全職種	25
R3.12.17	メンタルヘルス(ストレスマネジメント) / 外部講師	全職種	22
	※今年度の施設内研修は、新型コロナウイルス感染症対策にて中止(資料配布等)		
	・緊急時の対応・事故防止		
	・適切な接遇		
	・感染防止・食中毒予防		
	・リスクと事故防止(KY活動)/外部講師の予定		
	・コンプライアンス・個人情報の保護/外部講師の予定		
	・認知症ケア/外部講師の予定		
	・リスクと身体拘束廃止について		
	・記録について		
	・身体拘束廃止		
	・虐待防止について		

[illegible]

ボランティア来所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(回)
個人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サークル指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

実習受け入れ状況

期 間	学 校 名	人 数
	※新型コロナウイルス感染症対策にて受入れなし	

令和3年度 双葉事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

(1) 他職種との協力体制

- ① 利用率を維持または向上するために必要な業務依頼等について、積極的に協力体制を図る。

↓

他職種からの業務依頼等については出来る限りの協力体制を図るとともに、同職種内でも職員間で声掛けを行い実施することが出来た。

日頃の利用者の体調変化について職種間で情報を共有することが出来たが、今後はお互いの業務が重複しないよう更なる連携を図っていきたい。

(2) 収支状況の把握、バランスの取れた施設運営

- ① 収支バランスの取れた施設運営を行うため収入、支出状況の把握を毎月行う。
② 支出費用に係る経費削減を図る。

↓

インターネット等で価格を比較し、なるべく安価な物を購入するなど経費削減に努力した。

月次の資金収支状況の資料をスタッフ会議で配布するとともに、現状の把握(利用者確保状況、支出経費の現状と収支バランス状況)を踏まえ限りなく節約等に努めた。

主に水道光熱費(電気、ガス、水道)や食材、排泄用具の支出状況を前年度との比較から節約の可否等について確認の上、更なる節約について検討を行ってきた。

(3) 措置機関、病院、地域包括支援センター、他施設等への積極的なアプローチの実施とネットワークの構築。

↓

地元である太宰府市のほか、双葉近隣の市役所に出向き、利用状況、定員減少変更等説明、緊急一時保護、新規被措置者のお願いを随時行ってきたが、実際に被措置者の入所依頼はなかった状況であった。(以前に増して措置控えがあるように伺える。)

他施設からの入所問い合わせに対し、被措置までの手続きの流れ等を説明し、入所申込をお願いするも双葉への入所とは繋がっていないところである。

1月に福岡市と北九州市への挨拶回りを計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため実施出来なかった。

(4) 入所希望者に対する施設見学および面接の迅速な実施、措置機関への情報提供。

↓

新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、感染が治まっている時期には施設内の見学を実施するなど柔軟に対応した。

入所希望者に対しPCR検査・抗原検査を実施し、陰性を確認してからの受け入れとした。

(5) 迅速な入所が行えるよう、居室整備を行う。

↓

職員間で声掛けを行い実施することが出来た。今後も継続して行っていく。

2. 高品質なサービスの提供

(1) リスクマネジメントに対する意識の強化

- ① マニュアルの作成、更新、職員への周知徹底。

↓

感染症対応マニュアルとして、新型コロナウイルスに関する隔離対応マニュアルやBCPを作成したが、他の感染症マニュアルの見直しと更新が出来ていないことから、次年度に取り組みたい。

- ② 提出された事故・ヒヤリハット報告書に対し、迅速な防止策の検討および評価の実施。

↓

事故メモの提出は出来ていたが、事故報告書の提出が滞っていることがあった。
事故対応策への日数が経過すると意識が薄れてしまい、継続出来ていないことがあった。

- ③ 事故発生後の迅速且つ適切な対応。

事故発生後の状態観察、バイタル測定を行い、応急処置や必要時には病院受診を行った。

- ④ 重大事故が発生した場合は、対応策等を職員全体で協議する場を設ける

↓

お菓子を臥床したまま食べられたことで誤嚥し死亡に至ったケースについて検討を行った。
対応策として、利用者全員を対象におやつ提供時の見守りの必要性を3段階に分け、個々の対応の統一と徹底を図った。

- ⑤ 利用者の心身の状況把握に努め、多職種との情報共有を行い、事故を未然に防ぐ。

↓

令和4年3月31日付で本館居室を全面閉鎖することに伴い、本館利用者の移床検討を行う際に新館利用者の移床についても検討したことで、利用者のレベルに応じた居室配置となり介護が必要な方の状態が把握しやすくなったが、その反面自立されている利用者への関りが少なくなってしまったのが現状である。

- ⑥ ヒヤリハット報告書の重要性を理解し、事故を未然に防止する。

↓

ヒヤリハット報告書は利用者の把握に繋がり、情報を共有することで事故防止に繋がることから数多くの提出があることが望ましいが、実際には提出が出来ていないことから、書式の簡素化が必要である。

- ⑦ 退院予定者の状態把握と各職種への伝達。

↓

入院中の方の面会がコロナ禍で出来なかったことで状況把握が困難であり、退院時の情報と異なるケースもあった。今後も入院先の病院からの情報収集と各部署への伝達を行っていきたい。

- ⑧ 利用者の状況を把握し安全な食事を提供する。

↓

個々の状態に応じて安全な食事を提供出来るよう、嚥下状態などの観察を行い、異変があった際にはカンファを実施し、食事形態の見直しを行った。

- ⑨ 食中毒予防について利用者へ啓発を行う。

↓

毎年5月にホーム会で利用者へ食中毒予防の啓発を行っていたが、コロナ感染対策で実施出来なかったことから、ポスター掲示や給食会議を通じて実施した。

- ⑩ 感染防止対策と感染症発症時の迅速な対応。

↓

新型コロナウイルスに関する最新情報を収集し、感染防止対策委員会で双葉BCPIに沿った感染対策を検討した上で、利用者・職員に周知徹底を行ったことで感染者は一人も出なかった。

今後も新たな変異株の出現が予測されることから、引き続き感染防止対策の徹底が必要で

ある。

- ⑪ 要望・苦情等に対する迅速かつ適切な対応および情報開示(苦情解決第三者委員への報告会の実施 10月・4月)

↓

苦情等はなかったが、5月6日と11月4日に苦情解決第三者委員会を開催し、双葉における生活事故の現状等報告と苦情となり得る内容や苦情発生時の第三者委員の役割等についての説明を行った。

- ⑫ 拘束(抑制)廃止マニュアルの周知徹底および実践。

↓

12月に身体拘束廃止の内部研修を実施した。

毎月のリスク管理委員会で身体拘束を行っていないかの確認を行った。

(2) 利用者のQOL確保と生活の活性化

- ① 施設内での自主的活動への支援。

外部から講師がみえる生花については、新型コロナウイルス感染予防のため自粛となり1度も実施出来なかった。

- ② 趣味活動の拡大に向けた支援。

↓

コロナ禍で外出制限等にて身近で癒しを求める利用者の声があり、サービス向上委員会を通して花いっぱい運動の一環で、各階ベランダ・新館食堂外に季節の花を利用者と共に植え育てた。

定員削減になったことで職員の人数も減り、趣味活動の支援までは出来なかった。

- ③ 小規模で多種多様な行事の実施およびニーズに合わせた個別的な支援。

↓

新型コロナウイルス感染予防のため夏祭りや選択行事などほとんどの行事が中止となった。感染状況が落ち着いた時期にミニドライブを実施し、施設内行事については出来る限り実施した。

(3) 健康の維持管理

- ① 健康診断および保健指導の実施。

↓

コロナで延期にしていた胸写を9月に実施した。

保険指導が必要な方に実施し、検査等も必要に応じて受けていただいた。

- ② 病院受診の個別対応と受診調整。

↓

定期受診や個人での受診依頼に対して随時対応した。

- ③ 病院・薬局との連携。

↓

コロナ禍に伴い、感染対策を取りながら薬の受け渡し場所などを変更して行った。

嘱託医との協力体制は出来ていることから、今後も継続して行う。

- ④ 感染防止対策の徹底と感染症発症時の迅速な対応。

↓

感染症対策として、マスク着用・手指消毒・検温・外出や面会の制限・アルコール消毒液による手摺り等の清掃・館内の換気等を実施した。

急な発熱者が出た場合には別室での隔離を行い、嘱託医への報告や指示受け、迅速なPCR検査を実施した。

もし陽性者が出た場合の対応として、感染者(疑いも含む)と非感染者をゾーニング分けするために、本館に隔離のための部屋や防護服などを準備し、いつでも対応出来るようにして

いる。

インフルエンザ予防接種は11月に利用者・職員に対して行った。

⑤ コロナワクチン接種の実施と接種後の副作用の観察。

↓

嘱託医と連携し、令和3年6月～7月に1回目・2回目、4年3月に3回目を実施した。職員も同時接種を行うことで、アナフィラキシーショック等の副反応に対しての観察を行うことが出来た。

⑥ 措置替えに伴う受け入れ施設への医療的な情報提供。

↓

受け入れ施設への診療情報提供書・看護添書・定期薬の準備を行った。

(4) サービスの質の向上を図る

① 利用者の心身の状態把握に努め、変化時は早急にカンファレンスを実施し、サービス内容の変更を行う。

↓

その都度利用者の状態に応じてカンファを行ったが、カンファ後の経過や報告が中途半端になっていることがあった。

② 利用者の状態に適した居室の検討を行い、随時、移床の検討を行う。

↓

利用者の状態変化に応じて意見・提案が多く出され、その都度検討を行うことが出来た。

③ 接遇マナーの向上に取り組み、利用者の尊厳を傷つけない、対応に心がける。

↓

職員の思いと利用者の受け取り方にズレがあるため難しい問題ではあるが、言い方や言葉の選び方には気を付けるべきであり、今後も引き続き課題である。

④ 業務内容の見直しを随時行い、現状に沿った効率の良い業務改革を行う。

↓

本館閉鎖に伴いその都度業務の変更や見直しを行った。更にヘルパーの導入など今後も引き続き状況に応じた業務改善を行っていく。

利用者の血圧・体重測定の日を状況に応じて変更した。

⑤ 利用者に満足していただけるような食事提供が行えるよう、他職種と連携を行う。

↓

配膳前の時間を活用し、利用者とのコミュニケーションを図りながら要望等を聞く必要がある。

⑥ 自立支援計画に基づいたサービスの提供および評価の実施。

↓

ケース委員会で自立支援計画に変更などあった場合は申し送り簿に記載したが、十分な把握が出来ていない状態であった。記載や回覧の方法など工夫を行うと共に、各自が確認に努めるよう意識改革も必要である。

⑦ 双葉検討委員会(業務改善プロジェクト)を定期的開催し、業務の省力化と経費削減を目指す。

↓

本館を閉鎖したことによる新館一本化(浴室・食堂など)に向けて業務の見直しを随時実施した。

(5) 安全で満足できる食事の提供

① 個々の状況に応じた食事内容を検討し提供する。

↓

利用者にとって安全な食事が提供出来るよう必要時に食事形態の見直しを行った。

② 多職種と連携を図り、定期的な食事内容の見直しを行う。

↓

食事量減退など異変があった際には他職種と情報共有を行い、カンファで食事内容の見直しを積極的に行った。

- ③ 利用者のニーズを把握し、笑顔にできる食事を提供する。

↓

嗜好調査の結果や日々の利用者からの意見を尊重し、可能な範囲で食事に反映させた。

- ④ 他施設との情報交換を行い、よりよいサービスの提供につなげる。

↓

今年度は2回他施設との情報交換会に参加したことにより、日々の食事作りに繋げることが出来た。

- (6) 介護保険サービス利用に向けた円滑な援助

- ① 利用者(家族)からの介護ニーズの把握。
- ② 居宅介護支援事業所および各サービス事業所との連絡調整。
- ③ 介護サービス利用時の連絡調整。
- ④ 主治医意見書・認定調査時の情報提供。

↓

随時実施した。

- (7) 適切且つ迅速に業務遂行することで事務所における高品質なサービス提供を図る

- ① 利用者の預り金等に係る管理・事務処理業務を適切に行う。

↓

事務員と相談員で連携し遂行出来た。

- ② 利用者の事務代理業務手続き(市県民税手続き、収入申告等)について、迅速な事務処理を行う。

↓

事務所からの手続きは問題なく終了したが、一部事務所管理ではない利用者の収入申告に遅れが生じた。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ① 業務遂行にあたり、職員個々が相互に協力し合える雰囲気づくり。
- ② 職員個々が何でも言える関係づくり。
- ③ 職員が笑顔で働けるアットホームな職場づくり。

↓

事前に割当表で割り振りを行っているが、その日の状況や職員の状態に応じ協力し合うことは出来ていた。ただし、職員間の相性・年齢差・体調や気分によって言いやすい・言いにくいという状況はあったため、みんながワンチームの意識を持ち、コミュニケーションが取りやすい環境作りに努めていく。

- ④ 他部署とも情報を共有しながら連携を取り、協力し合える職場づくり。

↓

細かなことでも報告・連絡・相談し、協力し合って取り組むことが出来た。

- ⑤ 内部研修の内容の充実を図り、参加率を上げる。

↓

新型コロナウイルス感染予防で法人合同研修はなかったが、リモートで行われた新職員研修には2名が参加した。内部研修では夜間緊急時の対応、高齢者虐待防止、身体拘束廃止、防犯の研修を短時間で実施し、リスクマネジメントと個人情報保護については資料配布のみとした。

- ⑥ 職種ごとに技術・知識向上を目的とした勉強会(外部研修報告会)を実施する。

- ↓
新型コロナウイルス感染予防のため実施出来なかった。
- ⑦ プリセプター制度の実施、定期的な見直しを行う。
- ↓
実施はしたが、見直しまでには至らなかった。
- ⑧ 関係法令に基づく適切な労務管理を行い、職員の不合理が発生しないように努める。
- ↓
概ね実施出来た。

4. 地域貢献

(1) 地域、社会貢献(公益的活動)に対する積極的取り組みと参加

- ① 地域住民とともに行う活動への参加(クリーンデー6月・12月、餅つき12月、奉献行(ほうげんぎょう) 1月

↓
地域が計画する行事への参加については、新型コロナウイルス感染防止の観点から、参加を自粛としたところだが、地域(あいさつ通り)清掃は感染が落ち着いた時期に実施した。

- ② 地域に対して出前講座の実施。

↓
新型コロナウイルス感染予防のため実施出来なかった。

(2) 被虐待高齢者等に対する緊急保護入所の受け入れおよび心のケア

- ① 関係各機関と連携を取り、受け入れから次の行き先が決まるまでの間、出来る限りの支援を行う。

↓
感染予防のため事前にPCR検査・抗原検査を受けていただくなど慎重に対応し、3名(須恵町1名、大野城市2名)の受け入れを行った。

- ② 緊急保護入所がスムーズに受け入れられるよう、寝具、衣類の確保を行う。

↓
居室が空いた際には速やかに掃除を行うとともに、寝具や衣類の確保も行った。

利用者状況

①入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入 所 者 数	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	3
退 所 者 数	2	1	1	2	4	3	2	1	2	2	0	0	20
月初在籍者数	90	88	87	86	84	80	78	76	75	74	73	73	964
稼 働 率	90.0%	88.0%	87.0%	86.0%	84.0%	80.0%	78.0%	76.0%	75.0%	74.0%	73.0%	73.0%	80.3%

②要介護度

令和3年3月31日現在

要介護1	8	10.9%
要介護2	10	13.7%
要介護3	6	8.2%
要介護4	1	1.4%
要介護5	1	1.4%
要 支 援	11	15.1%
認定なし	36	49.3%
合 計	73	100.0%

③年齢

令和4年3月31日現在

	男 性	女 性	全 体
最高年齢	96	96	96
最低年齢	67	66	66
平均年齢	78.6	85	82.2

事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転 倒	8	3	5	9	6	5	4	12	9	3	5	9	78
転 落	0	0	1	3	0	1	1	0	2	1	0	1	10
介護中の事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
誤嚥・誤飲	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
誤 薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異 食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
離 設	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	5
利用者同士のトラブル	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	4
外 傷	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
そ の 他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合 計	8	4	7	13	7	10	7	12	12	5	6	10	101

苦情受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

行事実施状況

月	日	行 事	利用者数
4	2	移動図書、ナイスラン美容室	—
	6	光の間(集会所)清掃	6
	7	福岡県知事期日前投票	1
	10	訪問販売、松屋	—
	13	遊びリテーション	12
	15	おやつ会	—
	16	移動図書	—
	19	散髪	—
	21	誕生食	—
	24	松屋	—
	26	あいさつ通り清掃(コロナウイルス対策のため中止)	
	27	遊びリテーション	11
	28	ホーム会	50
	30	移動図書	—
5	7	ナイスラン美容室	—
	8	訪問販売、松屋	—
	11	遊びリテーション	10
	12	おやつ会、選択行事:春ドライブ①(コロナウイルス対策のため中止)	—
	15	新館2階茶話会	11
	17	散髪	—
	19	誕生食、選択行事:春ドライブ②(コロナウイルス対策のため中止)	—
	20	選択行事:春ドライブ③(コロナウイルス対策のため中止)	
	21	移動図書(緊急事態宣言が出ていることで中止)	
	22	松屋	—
	24	あいさつ通り清掃(コロナウイルス対策のため中止)	
	26	ホーム会	43
	27	遊びリテーション	10
6	1	光の間(集会所)清掃	3
	2	梅ちぎり	11
	3	遊びリテーション	11
	4	移動図書、ナイスラン美容室	—
	5	松屋	—
	9	おやつ会	—
	12	訪問販売	—
	16	誕生食、選択行事:買物(コロナウイルス対策のため中止)	
	17	遊びリテーション	11
	18	移動図書	—
	19	防災訓練(風水害)、松屋	23
	21	散髪	—
	23	ホーム会	44
	26	きぼう茶話会	5

月	日	行 事	利用者数
6	28	あいさつ通り清掃(コロナウイルス対策のため中止)	
		コロナワクチン接種1回目(きぼう・かんしゃ・2階)	36
7	1	遊びリテーション	10
	2	ナイスラン美容室	—
	5	コロナワクチン接種1回目(1階・3階)	44
	6	光の間(集会所)清掃	4
	7	おやつ会	—
	9	移動図書	—
	10	訪問販売、松屋	—
	14	選択行事:夏ドライブ(コロナウイルス対策のため中止)	—
	19	コロナワクチン接種2回目(きぼう・かんしゃ・2階)、散髪	34
	21	誕生食	—
	24	松屋	—
	26	コロナワクチン接種2回目(1階・3階)	43
		あいさつ通り清掃(コロナウイルス対策のため中止)	
	28	ホーム会	42
8	30	移動図書	—
	31	新館3階茶話会	17
	3	光の間(集会所)清掃(中止)、買物代行	—
	4	お盆法要	19
	5	遊びリテーション	8
	6	ナイスラン美容室	—
	7	松屋、三条サマーフェスティバル(コロナウイルス対策のため中止)	—
	11	おやつ会	—
	14	訪問販売	—
	16	散髪	—
	18	誕生食	—
	19	遊びリテーション	9
	20	移動図書(緊急事態宣言が出ていることで中止)	
	21	松屋	—
	23	あいさつ通り清掃(コロナウイルス対策のため中止)	
	25	ホーム会	44
9	2	遊びリテーション	9
	3	ナイスラン美容室、移動図書(緊急事態宣言が出ていることで中止)	
	4	松屋	—
	7	光の間(集会所)清掃	5
	11	訪問販売	—
	13	散髪	—
	15	彼岸法要、誕生食	19
	16	遊びリテーション	11
	18	松屋	—

月	日	行 事	利用者数
9	19	寿老の集い	26
	22	ホーム会、防災訓練(非常食調理)	48
	24	移動図書	—
	25	胸部レントゲン撮影	69
	27	あいさつ通り清掃(コロナウイルス対策のため中止)	
	29	施設内消毒、おやつ会	—
	30	遊びりテーション	9
10	1	ナイスラン美容室	—
	5	光の間(集会所)清掃	7
	6	防災訓練(地震)	19
	8	移動図書	—
	9	訪問販売、松屋	—
	13	電気点検のため全館停電	—
	18	散髪	—
	20	誕生食、お月見会	28
	21	遊びりテーション	10
	22	移動図書	—
	23	松屋	—
	25	あいさつ通り清掃	2
	27	ホーム会	37
	28	衆議院議員総選挙期日前投票	4
	30	かんしゃ茶話会	4
11	2	光の間(集会所)清掃	5
	4	遊びりテーション	9
	5	ナイスラン美容室、移動図書	—
	6	松屋	—
	10	防災訓練(火災)、おやつ会	32
	12	ミニドライブ(竈門神社)	5
	13	訪問販売	—
	15	散髪、インフルエンザワクチン接種	67
	17	誕生食、ミニドライブ(竈門神社)	3
	18	遊びりテーション	8
		ミニドライブ(竈門神社)	5
	19	移動図書、ミニドライブ(竈門神社)	2
	20	松屋	—
	22	あいさつ通り清掃(雨天中止)、ミニドライブ(竈門神社)	4
	24	ホーム会	42
	27	新館1階茶話会	10
12	2	遊びりテーション	5
	3	ナイスラン美容室、移動図書	—
	4	松屋	—

月	日	行 事	利用者数
12	7	光の間(集会所)清掃	5
	9	太宰府市議会議員選挙期日前投票	1
	11	訪問販売	—
	15	年忘れ食事会	—
	16	遊びリテーション	7
		門松作り	5
	17	移動図書	—
	18	松屋	—
	20	散髪	—
	22	ホーム会	48
	24	クリスマスおやつ会	—
	25	餅つき	19
	27	あいさつ通り清掃	6
1	1	新年祝賀会	—
	6	遊びリテーション	9
	7	ナイスラン美容室	—
	8	訪問販売、松屋	—
	11	光の間(集会所)清掃	6
	12	おやつ会	—
	14	移動図書	—
	17	散髪	—
	19	誕生食	—
	20	遊びリテーション	8
	24	あいさつ通り清掃(コロナウイルス対策のため中止)	
	26	ホーム会	45
	28	移動図書	—
2	1	光の間(集会所)清掃	7
	3	遊びリテーション、節分豆まき	8
	4	ナイスラン美容室(コロナウイルス対策のため中止)	
	9	防災(火災)訓練、おやつ会	25
	10	移動図書	—
	12	訪問販売(コロナウイルス対策のため中止)	
	16	誕生食	—
	17	遊びリテーション	8
	19	ホーム会	54
	21	散髪	—
	25	移動図書	—
	28	あいさつ通り清掃(コロナウイルス対策のため中止)	
3	1	光の間(集会所)清掃	6
	3	遊びリテーション	10
	7	コロナワクチン接種3回目(1階・3階)	43

ボランティア来園状況

[illegible]

実習受け入れ状況

[illegible]

令和3年度 訪問介護事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

(1) ご利用者、ご家族の負担を軽減し、満足できる訪問介護サービスの提供を図ります。

↓

実施できた。

(2) 受け入れ体制を整え、安定した事業所運営に努めます。

① 年間平均利用者数、要介護60名、要支援35名を目指します。

↓

要支援は達成できたが、要介護は達成できなかった。

(3) 居宅支援事業所および太宰府市、宇美町、須恵町、筑紫野市の包括支援センターへアプローチを行い、新規ご利用者確保に努めます。

↓

宇美町包括より新規依頼があり、須恵町包括からも定期的に新規の依頼があるが人員不足のため、受け入れができないことがあった。

① 受け入れ体制が整った場合、登録ご利用者が減った場合、速やかにアプローチを行います。

↓

人員不足のため、可能な限りでの受け入れを行っている。

2. 高品質なサービスの提供

(1) 訪問介護サービスの統一を目的とした「訪問介護サービスの基本マニュアル」および「訪問介護サービスに係る業務手順書」の作成と見直しを行います。

↓

「訪問介護基本マニュアル」に関しては見直しは出来ているが、「訪問介護サービスに係る業務手順書」に関してはサービス内容の変更に伴う見直しが出来ていない部分がある。

(2) 出社前の検温、入退室時の手指消毒を徹底し、感染予防に努めます。

↓

実施できている。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

(1) 各団体等が開催する研修会へ参加し、専門性を高めます。

↓

コロナ禍のため、オンライン研修で受講できる研修には参加した。

(2) 研修計画に基づき、事業所内研修を実施します。

↓

コロナの感染状況、蔓延防止等重点措置発出時は、会議、実技研修を中止し資料を配布した。

4. 地域貢献

(1) 在宅福祉サービスの充実と地域に密着したサービス提供を推進します。

↓

地域貢献は出来ていない。ご利用者やご家族の意に沿ったサービスは実施できた。

○ 令和3年度 訪問介護/ホームヘルプステーション ふたば の利用状況

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均数
①登録者数	要支援者	38	41	39	43	40	42	46	45	44	41	41	43	503	41.92
	要介護者	53	52	51	52	51	46	46	45	43	43	48	49	579	48.25
	総合事業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1
登録者合計		92	94	91	96	92	89	93	91	88	85	90	93	1094	91.17

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均数
②サービス提供 状況(延数)	予防(総合)	219	192	221	235	219	248	238	235	234	194	184	218	1463	121.917
	生活サービス	113	127	129	129	117	106	120	120	123	115	118	146	1,463	121.92
	身体サービス	185	155	159	164	166	159	120	120	155	141	169	143	1,836	153.00
	身体+生活	150	156	156	147	129	127	135	114	103	104	114	120	1555	129.58
	合計	667	630	665	675	631	640	613	589	615	554	585	627	7491	624.25

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均数
③1日の利用数		22.2	20.3	22.2	21.8	20.4	21.3	19.8	19.6	19.8	17.9	20.9	20.2	246.4	20.53

令和3年度 ケアプランセンターふたば 事業報告

事業方針

経営の充実と安定した運営に取り組む。

具体的計画

1. 利用率の向上

要介護状態となった場合においても、利用者が可能な限り在宅において有する能力に応じ、自立した日常生活が営むことができるように支援します。

- (1) 地域包括支援センターへの定期的な訪問PRを実施。

↓

困難事例等で関りは多くある。今後も機を見てPRを継続する。

- (2) 病院(地域医療連携室)への定期的な訪問PRを実施。

↓

病院や施設は面会中止の対応が継続している。その為、電話でのPRを実施。

- (3) 月次平均登録利用者数100名(内要支援30名)の確保。

↓

入院者、入所者の出入りが激しい事と、それに合わせて逝去される方も多く、月単位では利用者数が伸びなかった。その中でも新規利用者の獲得は出来ている為、地道に包括回りとし役所にパンフレット設置などは継続する。

2. 高品質なサービスの提供

介護保険法の順守と適切な個人情報の管理を行い、介護支援専門員としての資質向上を目指していきます。

- (1) 新型コロナウイルス感染症に係る居宅介護支援業務対応策の徹底。

↓

原則、各市町村の通知に沿った対応行い、訪問時は感染症予防対策(マスク、消毒、短時間訪問)の徹底を実施。

- (2) 介護保険法の順守と適切な個人情報管理の実施。

↓

介護保険法の順守と個人情報は適切に管理できた。

- (3) 介護保険適正化事業への理解と協力。

↓

Eメールでのやり取り及び太宰府市介護支援専門員情報交換会(オンライン)への参加により市の方針を確認。

- (4) 特定事業所加算算定条件の順守。

↓

居宅内勉強会の開催と、毎月のチェック項目を利用して順守出来ている。

- (5) 他の居宅介護支援事業所との定期的な交流と情報交換。

↓

不定期だが開催に至っている。特定事業所の算定基準でもある為、今後も継続実施。

- (6) 外部研修への積極的参加と事業所内のフィードバック。

↓

コロナ禍でオンライン研修に移行しており、条件が合えば参加している。

- (7) 高齢者虐待、認知症、人権同和問題の研修参加。

↓

新型コロナウイルス感染予防対策にて参加出来ていない。徐々に規制が緩和されている為、開催されれば来期は参加予定。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

“褒め合う、教え合う、競い合う” 気持ちでお互いに研鑽を重ねていきます。

- (1) 定期的な勉強会による仕事の問題点把握や意見交換の実施。

↓

特定事業所加算を算定していることもあり、勉強会を含め様々な意見交換は出来ている。今後も継続する。

- (2) 外部研修への積極的参加と事業所内のフィードバック。

↓

オンライン研修に切り替わってきており、条件が合えば参加出来た。

4. 地域貢献

居宅介護支援事業所として出来る地域貢献(公益的活動)を推進します。

- (1) 養護老人ホーム双葉(夏祭り・防災訓練)と地域自治会(三条区の三和会、三条台のひまわり会)との共生・地域行事 への参加を推進。

↓

コロナ禍で開催もなく、参加も出来ていない。徐々に規制が緩和されている為、開催されれば来期は参加や出席予定とする。

- (2) 太宰府市社会福祉協議会主催のボランティア活動、福祉まつりやサロンの参加。

↓

コロナ禍で福祉まつりの中止により参加出来ていない。徐々に規制が緩和されている為、開催されれば来期は参加や出席予定とする。

- (3) ペットボトルキャップ、使用済み切手、ベルマークの寄付によるエコ活動の実施。

↓

コロナ禍で社会福祉協議会が、ペットボトルキャップの回収を中止しており中断している。再開はホームページや“福祉のひろば”に掲載されるとの事なので、確認後に活動再開する。

居宅介護支援事業所

①令和3年度利用者実績者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
要介護1	18	23	21	22	19	21	21	22	19	17	18	18	239
要介護2	23	24	22	21	22	22	21	23	24	24	23	22	271
要介護3	11	9	11	12	13	12	11	10	11	8	10	10	128
要介護4	4	4	4	4	4	3	4	3	3	3	3	3	42
要介護5	3	3	2	2	2	2	2	1	1	2	2	2	24
要介護 合計	59	63	60	61	60	60	59	59	58	54	56	55	704
要支援1	10	10	10	10	10	10	10	8	7	7	7	7	106
要支援2	14	15	14	12	11	12	11	14	13	13	12	13	154
要支援 合計	24	25	24	22	21	22	21	22	20	20	19	20	260
総合計	83	88	84	83	81	82	80	81	78	74	75	75	964

②令和3年度研修及び活動報告（4月～9月）

	開催日	開催時間	参加者	研修内容
4月	3・10・18・23		屋敷・池野・小清水	◆居宅勉強会
5月	13:00～17:00		屋敷	●居宅介護支援事業所としての備えとケアマネジャーの今後の在り方を考える①(主任ケアマネ更新要件研修)
	4・15・21・28		屋敷・池野・小清水	◆居宅勉強会
6月	16		屋敷	◆●居宅介護支援事業所としての備えとケアマネジャーの今後の在り方を考える②(主任ケアマネ更新要件研修)
	4・19・26・29		屋敷・池野・小清水	◆居宅勉強会
	28		屋敷	●居宅介護支援事業所としての備えとケアマネジャーの在り方を考える③(主任ケアマネ更新要件研修)
7月	10・14・24・30		屋敷・池野・小清水	◆居宅勉強会
8月	7・15・20		屋敷・池野・小清水	◆居宅勉強会
	26	14:00～16:00	屋敷・池野・小清水	●第1回太宰府市情報交換会
	28・29	10:00～17:00	屋敷	●日本介護支援専門員協会2021全国大会 in 山口“対人関係の本質を問う”
9月	4・10・17		屋敷・池野・小清水	◆居宅勉強会
	22		屋敷・小清水	●非常食調理訓練(災害用アルファ米 白飯調理)
	21		屋敷・池野・小清水	●内部研修(緊急時対応について)

②令和3年度研修及び活動報告（10月～3月）

10月	5・16・23・30		屋敷・池野・小清水	◆居宅勉強会
11月	26		屋敷	◆主任介護支援専門員連絡会研修(8050 問題から私たちの役割を考える)
	16	14:00～16:00	屋敷・池野	●第2回太宰府市情報交換会
	6・13・27		屋敷・池野・小清水	◆居宅勉強会
	9	13:00～14:30	屋敷・池野・小清水	◆共同事例検討会
12月	15	18:45～19:45	屋敷・池野・小清水	◆内部研修(コンプライアンス関連について～高齢者虐待と身体拘束について)
	3・23		屋敷・池野・小清水	◆居宅勉強会
	1・15	13:30～16:30	屋敷	●主任介護支援専門員フォローアップ研修(WEB 研修版)
1月	8・15・21・29		屋敷・池野・小清水	◆居宅勉強会
	14	14:00～16:00	屋敷・池野・小清水	◆第3回太宰府市情報交換会
2月	4・12・25		屋敷・池野・小清水	●居宅勉強会
	5・10・25		屋敷・池野・小清水	●居宅勉強会
3月	18		屋敷・池野・小清水	◆内部研修「防犯対策による研修・訓練」
	5・10・25		屋敷・池野・小清水	●居宅勉強会
	24	9:00～17:00	屋敷	介護支援専門員実務研修受け入れ

令和3年度 特別養護老人ホームなの国 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

- (1) 入・退居における円滑な調整を行い、年間を通して稼働率(75名)を保持します。

↓

コロナの影響により年間を通して入居が進まなかったことや、年度末に入居者数名がコロナを罹患したことで、入院期間が長引いたことも要因となり、年間稼働率の平均が74.5名と目標値を下回った。

- (2) 在宅部署や地域・在宅サービス提供機関、及び医療機関との情報交換や交流の場に積極的赴き、新規入居者の確保につなげます。

↓

提携医療機関との連携を密に図り、早期に退院できる様働きかけた。しかし、他事業所との交流は感染症流行もあり、機会を得ることがなかった。

- (3) 入居希望者、依頼者との面談の中で希望する生活のニーズを把握し、必要に応じて在宅サービス等、他部署利用へつなげます。

↓

早期対応が必要な方については、なの国の在宅サービスや法人内施設の情報提供を行い、法人単位での利用者獲得を念頭に置き対応した。

- (4) 入居者の身体状況、生活環境の変化に伴うリスクマネジメントをユニットスタッフと共に行い、安心・安全な環境を提供します。

↓

ヒヤリハット報告や、それ以前の小さな変化についてユニットスタッフから意見を吸い上げ、専門職種間で協働し事前に事故発生を予防した。また、リスクマネジメントにおいても、入居者の生活を念頭に対策を実施した。

- (5) PDCA サイクルを回し、事故の検証、再発予防策の実施、効果測定及び振り返りを行い、事故の未然防止や類似事故の発生防止に努めます。

↓

リスク委員会を通じ、効果測定まで行ったが類似事故や、期間を置いて発生した事故等があり、介護事故に対するアプローチが不十分であった。

- (6) 法人ブログを通じて情報発信を行い、魅力ある施設をアピールし入所者の確保に繋がります。

↓

サークル活動の様子をInstagramを通じて発信することで、なの国らしさをアピールした結果、新規申込者(2名)の獲得につながった。

- (7) サークル活動、施設内活動をInstagramを通じて多くの方に知って頂きます。

↓

年間通して、サークル活動やユニット内行事等Instagramに上げることができた。

- (8) 入居者の身体状況、生活環境の変化に伴うリスクマネジメントをユニットスタッフと共に行い、安心・安全な環境を提供します。

↓

リスクの高いご入居者についてはその項目についてケアプランと連動させることで共通認識を持つことができたが、ケアマネとしてリスクマネジメントにより関わっていくことが今後必要。

- (9) ご入居者一人一人の状態を的確に把握し、多職種連携にて異常の早期発見、必要時は臨時のサービス担当者会議を行い入院等回避することで安定した利用率につなげます。

↓

必要時には臨時のサービス担当者会議を開催し、多職種がそれぞれに専門性を発揮することで方向性について話し合うことができたが、回避できない入院も多かった。

2. 高品質なサービスの提供

- (1) 生活の継続に重点を置いた面接やアセスメントを行い、“できること”を重視した入居の受け入れを行います。

↓

入居者本人に“できること”を聞く等、重点的にアセスメントを実施したが、入居後の実行率は低い様に思われた。

- (2) 入居者様の個性や心身の状況に応じた生活の快適性・利便性・安全性を追求し、ユニットごとのケアの推進を行います。

↓

入居者の状況変化に応じた環境設定を他職種と協働し実施することができた。

- (3) 日々の情報収集を関係職種間で密に行い、速やかな課題の発見・解決にあたる。カンファレンスを通して職種間の連携を強化し、共通理解を基礎としたチームケアを推進します。

↓

日頃の情報収集や本人、家族の言動から共有を図り、職種間での意思疎通を図った。浸透度、理解度はユニット毎に差が生じており、フォローする必要性を実感した。

- (4) 会議や委員会活動における職員間の合意形成・連携を強化し、入居者満足・サービスの質の向上を図ります。

↓

会議及び委員会において、入居者の生活を念頭に置いた発言を心掛けることができた。

- (5) 入居者の安全対策(事故、感染症、災害時等)及び緊急時対応の構築を図ります。

↓

感染症対応においてマニュアルを作成し、状況に応じ適宜更新を行った。また感染症発生時に於いては、当該ユニットスタッフの他、他職種との連携を図り早期の終息ができた。

- (6) 受け付けた苦情の原因を究明し、職種間で連携を取りながら、総合的なサービスの質の向上を図ります。

↓

苦情に対して、具体的な解決策を検討・実行に移しサービスの質の向上を図ることができた。

- (7) 感染予防に対する取り組み

- ・定期的な換気、食事前の手指消毒、手すりの消毒を行う。
- ・各フロアに掲示板を設置し、スタッフへの情報共有・周知を行う。
- ・スタッフは常時、マスクの着用、こまめな手洗い、消毒を行う。

↓

感染予防に関して、常に気をつけながら対応できていると思う。また職員全体を通して意識的に取り組めていた。

- (8) 感染症対策により面会や外出等様々なことが制限される中、ご入居者・ご家族の不安をできるだけ解消できるよう双方に積極的に関わっていく。また日頃からご入居者の情報収集に努め正確な情報をご家族に伝えることで安心感につなげます。

↓

ケアプラン変更時等でできるだけご家族と連絡をとる機会を設ける事ができた。しかし入居者がより要望や、意向を伝えやすいようユニットをラウンドする時間を今後は増やしていきたい。

- (9) 感染予防として 1 日に対応する階を限定し、緊急時以外は複数階をまたいだ直接的訓練を避けます。

↓

感染予防として 1 日でリハビリを実施するフロアーを限定したため、機能訓練指導員が介入する日を 1 か月ごとにスケジュール管理し、スケジュール表は各フロアーに配布・掲示して。

- (10) 行事食に季節の食材を取り入れ、行事食カードやランチョンマットを活用し、季節感を感じられる演出の工夫を行います。

↓

季節の食材を使用した献立作成を行い、お品書きやランチョンマット、料理の説明書などを作成し料理の演出を行うことができた。

↓

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- (1) 役割を明確にする事で業務負担を減らし、残業時間の短縮を図ります。

↓

役割分担を明確にしたことで、残業時間の短縮を実現することができた。

- (2) 有給休暇を取得できる環境を作り、ライフワークバランスの充実を図ります。

↓

有給管理台帳を基に各職員の有給残数や、年間取得日数について説明することができた。

- (3) 感染症対策を行いつつ、必要な職員研修を企画、実施する事で施設全体のサービスの質の向上を図ります。

↓

施設内部研修の他、リスクマネジメントの一環で介護技術講習会を開催し、サービスの質の向上を図った。

- (4) 新人スタッフへのオリエンテーション(認知症について、介護技術、ユニットケアについて等)。

↓

介護技術に関しては、今年度よりノーリフティングケアを取り入れているのでその方法を全スタッフに対し指導を行っているところである。

- (5) 新人スタッフへの配布資料を全フロアー統一し、スムーズに業務に取り組めるようなシステム作りを行います。

↓

配布資料が各フロアーに任せてしまっている為、再度確認し統一したものを作成していく。

- (6) 明るい挨拶や職員同士のコミュニケーションを常に意識することで働きやすい職場づくりにつなげます。

↓

お互いが気持ちよく過ごし意見を言いやすくするためにも職員同士のコミュニケーションは意識した。

- (7) 多職種と福祉用具等の管理・情報共有することで、スムーズな環境整備を行うことができます。

↓

約3か月ごとの福祉用具のチェック・管理表の更新により、用具の所在が確認できるため、比較的スムーズに環境調整を行うことができた。ただし、用具の使用方法や管理・修理についてはまだ介護スタッフに正しく浸透していないため、引き続き知識向上に努める必要がある。

- (8) 生活パターンにあった働き方改革の実施をします。

↓

雇用形態に応じたシフトの作成や雇用形態に関わらず同一労働職員に対しては、各種手当の支給をすることができた。

4. 地域貢献

(1) 地域行事へ積極的な参加を図ります。

↓

感染症状況下にて地域行事への参加はできなかった。

(2) 地域に開かれた施設を目指し、入居者が地域と繋がる機会を作ります。

↓

公園清掃や花壇管理を通じ、入居者が地域と繋がるきっかけをつくる事ができた。

(3) 秋祭り等を通じて、地域の方々との交流を図ります。(なの国を知ってもらう)

↓

秋祭りは中止となったため、文化祭を初めて開催した。入居者様には好評で、作品作りの意欲に繋がっている。今後は、地域の方やご家族様も参加していただけるように毎年の開催を目標としていく。

(4) 現在来ていただいているボランティアの方々とのつながりを大切にするとともに、新規ボランティアの受け入れにも積極的に取り組む

↓

コロナ感染状況下にて、ボランティアの受入をお断りしていた。

(5) コロナ終息後、外部とのやり取りを実践に移せるように準備をします。(介護技術講習等)

↓

コロナ感染対策もあり準備不足であったため、今後に向けて、準備を行っていく。

利用者状況

①入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	0	2	14
退居者数	2	2	1	1	1	1	0	3	0	2	1	0	14
月末在籍者数	79	79	79	79	80	79	80	78	79	79	78	79	948
月末在所者数	75	77	77	77	74	77	78	78	74	73	67	71	898
延べ利用人数	2,276	2,349	2,284	2,392	2,356	2,287	2,376	2,334	2,287	2,285	1,944	2,143	27,313
稼働率	95%	95%	95%	98%	97%	95%	96%	97%	92%	92%	87%	86%	93.8%

②月別要介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	4	4	4	4	4	3	3	3	4	3	3	4	43
要介護2	11	11	11	10	10	10	11	11	10	11	12	11	129
要介護3	19	20	21	23	22	22	22	22	19	17	16	18	241
要介護4	24	25	24	24	22	26	26	24	25	27	21	25	293
要介護5	17	17	17	16	16	16	16	18	16	15	15	13	192
合計	75	77	77	77	74	77	78	78	74	73	67	71	898
平均要介護度	3.5	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.53

事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	4	3	1	4	5	8	2	4	5	8	6	5	55
座り込み、落床	2	2	2	0	2	1	1	0	1	1	0	1	13
配薬関係	1	4	4	0	1	0	1	1	1	1	1	0	15
皮膚トラブル	1	6	2	1	6	0	5	3	2	1	2	0	29
離脱	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
異食	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他	1	0	0	0	1	1	3	0	0	0	1	0	7
合計	9	15	9	5	15	11	12	9	9	11	10	7	122

苦情受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

令和3年度 年間行事活動報告

月	施 設 行 事	他機関・地域行事
4月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動	
5月	映画鑑賞会 喫茶の日 運営懇談会(アンケートのみ) 午後活動	
6月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動	
7月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動	
8月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動	
9月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動 敬老会(祝賀メニューのみ)	
10月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動 運営懇談会	
11月	映画鑑賞会 喫茶の日 なの国文化祭 午後活動	
12月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動	
1月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動 元旦祝賀会(祝賀メニューのみ)	
2月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動	
3月	映画鑑賞会 喫茶の日 午後活動	
【週間予定及び会議等】 ○散髪…ヘアヘルパー(第4木曜) ○移動販売…椿食堂(第2・第4水曜) ○電気検針日…毎月1日 ○体重測定日…毎月15日 ○スタッフ会議…第4週(曜日未定) ○管理者会議…第2木曜日 ○文化祭会議…第2木曜日		

令和3年度 全体研修予定表【実績】

日 程	時 間	研 修 内 容	担 当	備 考
4 月 15 日(木)	18:30 ~ 19:30	理念に基づく行動指針について 各部署事業計画について	施設長 事務主任	25 名
5 月 20 日(木)	18:30 ~ 19:30	食中毒の予防と対策	栄養士	法定 緊急事態 宣言にて中止
6 月 17 日(木)	18:30 ~ 19:30	苦情について 身体拘束廃止について①	相談員	法定 緊急事態 宣言にて中止
7 月 15 日(木)	18:30 ~ 19:30	KYTトレーニングについて リスクマネジメント 【介護技術講習会】	相談員 介護職員 リハビリ	法定 13 名
8 月 19 日(木)	18:30 ~ 19:30	コンプライアンスについて プライバシー保護について 個人情報保護について	事務	法定 5 名
9 月 16 日(木)	18:30 ~ 19:30	ターミナルケアについて	看護師 介護職員 相談員	法定 8 名
10 月 21 日(木)	18:30 ~ 19:30	感染症、褥瘡の予防と対策について	看護師	法定 15 名
11 月 18 日(木)	18:30 ~ 19:30	認知症の理解	外部講師	法定 23 名
12 月 17 日(金)	18:30 ~ 19:30	メンタルヘルスについて	外部講師	法定 11 名
1 月 20 日(木)	18:30 ~ 19:30	身体拘束廃止について②	介護職員	法定 感染症にて 中止
2 月 17 日(木)	18:30 ~ 19:30	ユニットケアについて	介護職員	感染症にて 中止
3 月 17 日(木)	18:30 ~ 19:30	防犯、防災について	法人防災委 員会	サ高住感染対 応にて中止
その他の研修予定				
新入職員研修会				
リーダー研修				
新入職員フォローアップ研修				
中堅職員研修				
救命救急研修				
施設外研修				

令和3年度 年間実績表

月	施設行事	地域行事・他
4月		
5月		
6月		
7月		
8月	花火鑑賞会	
9月	敬老祝賀会	
10月	コスモス見物 なの国 文化祭	
11月	紅葉狩り	
12月	クリスマス会 ユニット忘年会	
1月	新年祝賀会	
2月	節分	
3月	花見	
その他月間予定・週間予定		
● サークル活動……………各ユニットで実施 ● パン販売……………毎月1回		

ボランティア来所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サークル指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

実習受け入れ状況

期 間	学 校 名	人 数
令和3年12月26日	麻生医療福祉専門学校	1名
令和4年3月28日～4月2日	西九州大学	2名

研修実施状況

開催年月日	研 修 内 容	参加職種	参加人数
令和3年4月25日	各部署事業計画について※コロナ感染防止のため中止	全職種	25名
令和3年5月20日	食中毒の予防と対策、救急対応研修【緊急事態宣言にて資料配布】	全職種	
令和3年6月17日	苦情対応について【緊急事態宣言にて資料配布】	全職種	
令和3年7月15日	KYトレーニングについて	全職種	13名
令和3年8月19日	コンプライアンス研修	新入職員	5名
令和3年9月16日	ターミナルケアについて	特養・SS	8名
令和3年10月21日	感染・褥瘡症予防と対策について	全職種	15名
令和3年11月18日	認知症の理解	全職種	23名
令和3年12月17日	メンタルヘルスについて	法人全職種	11名
令和4年1月20日	身体拘束について【感染症対応にて資料配布】	特養・SS	
令和4年2月17日	ユニットケアについて【感染症対応にて資料配布】	全職種	
令和4年3月17日	防犯・防災について【感染症対応にて資料配布】	全職種	

令和3年度 ショートステイなのくに 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

- (1)新規利用者受け入れの際は迅速に対応し、利用者・家族が安心して利用して頂けるような関わりを持ち、再利用や定期利用に繋げる。月ベット平均稼働率17.6以上を継続します。

↓

新規利用者の受け入れについては可能な限り対応を行っている。担当学会議時に身体状況・生活状況の把握をし安心してご利用いただけるように取り組んでいる。

稼働率においては、月平均17.6人目標値に対し、月平均17.2人にて推移。令和2年度比±0%で推移している。また、目標値に対し、86.0%の稼働状況であった。

昨年度と比較すると、長期間に渡り稼働を停止する場面は少なかったものの、新型コロナウイルス感染状況の影響は依然として大きく、キャンセルのみならず、利用控えに伴う新規獲得数の減少は今現在も続いている。

- (2)緊急的な利用の受け入れ・利用の追加(延長)・時間外送迎等、可能な限り、利用者・家族の希望・要望に応じた柔軟なサービス提供に努めます。

↓

可能な限りの対応を行った。ご家族の体調不良等、緊急の受け入れについてもお断りせざる得ない場面も発生した。また、R3.8月には台風の影響で河川の増水を警戒し、行政より福祉避難所開設要請にて2名の緊急避難者の受け入れを行った。

- (3)定期的に担当ケアマネジャーへ情報提供を行い、連携を図ります。

↓

利用中の状況については、毎月初にサービス状況報告書を担当ケアマネジャーに送付のみならず、利用中に状況の変化が見られた時や、ご家族からの急な利用中止の際は速やかに担当ケアマネジャーに連絡行っている。

新型コロナウイルスでのサービスの一時中断の際などは、ご本人と関わりのある他事業所とも連携を図り、経過報告等を行った。

- (4)長期(特養・老健)入所や入所待機者も視野に入れた受け入れ・事業紹介を行う。

↓

短期での利用から特養入居申し込みをされ、入居待機での長期利用となった方が現在10名利用中である。また、可能な限りの在宅生活支援の為、併設のデイサービス、ヘルパー、サ高住への紹介にて、利用、入居に繋がったケースもあった。

- (5)ケア内容の変更点や追加点が明確且つ、周知徹底が図れる様、情報共有の工夫を行ういます。

↓

自宅から引き続き様子観察や処置が必要な事項については口頭、文章等で関係職種への情報交換を行った。結果については随時、ご家族、ケアマネジャーへの報告を行った。

- (6)サークル活動、施設内活動をInstagramを通じて多くの方に知って頂きます。

↓

年間通して、サークル活動やユニット内行事等Instagramに上げることができた。

2. 高品質なサービスの提供

- (1)利用者や家族のニーズを的確に捉え、“思い”を共感する。共通認識を持ち、課題を共有する。各職種と連携を図り在宅生活の継続ができるよう支援する。また、コミュニケーションを密に図り、利用者ご家族との信頼関係の構築に努めます。

↓

自宅での生活リズムをショートステイでも継続できるよう、担当者会議時や利用がある度に情報収集を行いユニット職員等関係職種と情報共有を密に行った。

コロナ禍において、担当者会議も照会での対応となる場面も殆どではあるが、電話連絡も用いて情報の共有に努めた。また、意向についてはフェースシートや口頭で関係職種と共有した。

- (2)新型コロナウイルスの状況を鑑み、体調確認範囲を拡大。利用時毎の利用者、又は同居する家族等、利用者に関わりのある方の体調や状態変化等を把握し、関係職種間で情報の提供、共有に努めます。

↓

利用者が通うデイサービスやその他のサービス事業所での感染者発生 of 報告を受ける場面も多くなった。都度、関係職種間での情報の共有、確認を行い、出来る範囲での受け入れを行った。また、なのくににおいて同様の事案が発生した場合、迅速に関係職種等への連絡を行い、感染拡大予防に努めた。令和3年度においても、新型コロナウイルス罹患者を出すことなく、継続したサービス提供を行うことが出来た。

- (3)日々のバイタルチェックにより状態把握をし、普段と様子が違う際は家族やケアマネージャーへ相談、報告を行い、有事の際は迅速に対応します。

↓

体調や全身状態の異常時にはご家族、ケアマネージャーへの報告を随時実施。必要に応じ、他サービス事業者との情報を共有し継続した観察、支援に繋げている。

- (4)行事委員会、スタッフ間で計画的に外出支援等のアクティビティーの充実を図る。実行、評価を繰り返し、持続的な支援を実施する。役割分担の内容を明確化し、業務効率向上に努める。施設イメージ向上の為の活動も行います。

↓

委員会には可能な限り参加し、行事やサークル活動への参加を行っている。個別での対応(生活リハビリ)ニーズも増え、都度協議し出来ることを維持することを現場と協働し目的に取り組んでいる。SNSなどの情報発信ツールを活用した活動報告等も関係職種と協働し継続することが出来ている。

- (5)苦情の事案が発生した際は誠意を持って対応し、原因の究明・再発防止に努めます。

↓

令和3年度は3件の苦情要望に対応。医療面での対応不備、コールの不具合、利用者心情に対する配慮不足であった。原因に対する再発防止策に努め、同様の苦情は発生していない。引き続き、どのカテゴリーにおいても再発防止に努めていく。

- (6)居宅サービス計画に基づき、ケアプランを作成。それに基づくサービス実施とモニタリングを徹底する。特に初回利用の方や利用頻度の少ない方は柔軟に対応する。

↓

概ね3泊4日以上連続利用が発生した方においては、プラン作成、更新を行っている。作成時は居宅サービス計画との整合性を保ち、ご本人、ご家族への説明・同意を頂いている。

初回利用の方や利用頻度が少ない方については、利用前にご家族、ケアマネと情報の共有に努め、スムーズな利用が実施できるよう努めた。

- (7)感染予防に対する取り組み

- ・定期的な換気、食事前の手指消毒、手すりの消毒を行う。
- ・各フロアに掲示板を設置し、スタッフへの情報共有・周知を行う。

・スタッフは常時、マスクの着用、こまめな手洗い、消毒を行う。

↓

感染予防に関して、常に気をつけながら対応できていると思う。また職員全体を通して意識的に取り組んでいた。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

(1)ショートステイフロア会議に参加し、職員間の情報共有・意思統一を図り、チーム力を高めます。

↓

ショートステイ会議に出来る限り参加し、ご本人・ご家族の意向を各担当者と情報共有を行った。また、個別の事案において会議のみならず、全スタッフのアセスメントを集約し、安心できるサービスの提供に努めた。

(2)外部研修等の機会をもちます。

↓

コロナ感染対策のため、外部研修に参加する機会が無かった。

4. 地域貢献

(1)地域ケアを考える会の活動、ライフレスキュー事業を活用し、地域課題への迅速な対応を図ると共に、地域福祉との共生、充実の為に地域事業所等との連携・協働を図ります。

↓

新型コロナウイルスの影響もあり、考える会の活動は実施することが出来なかった。ライフレスキュー事業においては、相談はあるものの、直接的な活動へつながる案件は発生していない。

地域課題への取り組み、連携において、積極的な介入は実施できていない。次年度は文化祭行事を通して、地域と施設職員等が交流できる場を作ること为目标とする。

【短期入所生活介護】

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間	
	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)
要介護1	5	31	4	26	6	32	8	57	6	41	7	40	5	34	6	41	6	33	7	39	3	20	4	26	67	420
要介護2	11	80	11	79	8	76	10	84	9	78	10	81	10	77	11	84	9	68	7	70	4	79	8	102	108	958
要介護3	14	199	13	225	12	197	14	219	14	231	14	217	15	216	11	212	15	250	15	244	13	197	15	232	165	###
要介護4	10	147	8	147	10	177	11	156	11	167	10	156	9	159	9	153	9	145	10	160	9	137	9	157	115	###
要介護5	2	25	2	41	2	31	1	10	1	12	1	10	3	31	3	46	2	41	2	41	4	38	3	44	26	370
小計②	42	482	38	518	38	513	44	526	41	529	42	504	42	517	40	536	41	537	41	554	33	471	39	561	481	###
平均要介護度	2.8		2.80		2.80		2.4		2.80		2.8		2.8		2.7		2.7		2.8		3.2		2.6			
1日平均利用者数(人)	16.1		16.7		17.1		17.0		17.2		18.8		17.0		17.9		17.3		17.9		16.8		18.1			

【介護予防短期入所・短期入所合計】

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間	
	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)	人数 (人)	実績 (日)
合計	43	486	38	518	38	513	45	530	42	535	42	504	43	519	40	536	41	537	42	558	33	471	40	570	487	###
1日平均利用者数(人)	16.2		16.7		17.1		17.1		17.3		17.0		16.7		17.9		17.3		18.0		16.9		18.4		17.2	
ベッド稼働率(%)	81.0%		83.5%		85.5%		85.5%		86.3%		85.0%		83.7%		89.3%		86.6%		89.4%		84.1%		91.9%		86.0%	
特記事項																										

令和3年度 デイサービスセンターなのくに 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

- (1)各居宅支援事業所、近隣の福祉サービス等を訪問し、新規利用者を獲得する為の広報・営業を行います。その際、月の状況報告書と月間行事予定表と一緒に配布します。

↓

コロナ禍ではあるが、感染予防を徹底し見学や体験利用を積極的に受け入れた。結果、ご家族、ケアマネージャーにもなのくにの取り組みが伝わったようで、新規相談の件数も増やすことへ繋がった。

- (2)職員が一体となって利用者に満足して頂けるサービスを一貫して行えるよう努めます。

↓

体験利用時は、事前に可能な限りの情報をケアマネージャー、ご本人、ご家族から情報提供をお願いし、ニーズの把握に基づいたサービスを提供できるように努めた。また、ご家族との会話の中で介護負担などを感じる方がいた際は、ケアマネージャーへ相談し、利用時間や回数などのサービスの見直しの提案を行った。

令和3年度 月平均 18.8 名(前年度 15 名)

- (3)特色あるデイサービスの運営を目指し、他事業所との差別化をはかる。利用者個々に目を配り、キメ細かいケアを実施することで、利用者の自立支援を促進します。

↓

個別機能訓練に力を入れ、一日でも長く住み慣れた家で暮らしてもらえるよう、ご利用者の体調に配慮しながら、残存機能の維持向上に努めた。毎月の創作活動は、ご利用者の意見なども反映させ少し手の込んだ作品作りを行った。手先を使うことで、普段動かされない方も集中して取り組まれており、完成した時の達成感もあるようで好評であった。

来年度は更にご利用者の声を反映できるようアンケート調査にも協力してもらっている。

令和3年度 新規利用者数 23 名(前年度 29 名)

- (4)在宅高齢者とその家族のニーズを把握し、利用時間等の柔軟な対応を行うことで、利用されるご本人・家族の思いを活かしたサービス提供の促進を図っていきます。

↓

ご本人の希望に沿った短時間利用の受け入れ、ご家族の介護負担を考慮しての追加利用の受け入れを行うなどして柔軟に対応を行った。

令和3年度利用者実績数 5884 名(前年度 4680 名)

- (5)デイサービスセンターは、ヘルパーステーション・ショートステイの在宅サービス・施設サービスが同じ敷地内に立っており、一連の流れでご利用していただくことができる。その為、連携強化を図り、法人全体の収益が上がるように努めます。

↓

ヘルパーステーション、ショートステイと併用で利用されているご利用者も通われている。自宅、ショートステイ、デイサービスセンターそれぞれの様子を情報共有することでそれぞれのサービスを点ではなく線として捉えることができ、サービスをより充実させることができた。

- (6)2S(整理・整頓)の徹底で業務の効率化をあげます。

↓

備品をそれぞれ必要な場所に配置を変えたことで、在庫の把握もしやすくなり、探すこともほとんどなく業務に支障をきたさないようになっている。職員の片づけに対する意識も変わってきている。

2. 高品質なサービスの提供

- (1) ケアプランに基づいた通所計画書を作成し、一定期間の評価を行い、自立支援に向けたサービス提供を行います。

↓

生活相談員を主として計画書を作成し、モニタリングを3か月に毎に評価することができた。

- (2) 目標を明確化し、職員全体に浸透させます。

↓

申し送り、連絡ノートを活用し目標達成に向けた具体的な提示を行っている。

- (3) 事業所内で提供サービスの振り返りを行い、チームでのサービス提供に反映し、必要に応じて業務の改善を行います。

↓

毎月1回以上のディサービス会議開催。サービスの振り返りと改善点、業務見直しを行い、ご利用者の満足度を高められるよう努めた。

- (4) 個人を大切に質の高い接遇(特に言葉使い)ができるよう、研修参加・日々のケアの向上・信頼関係の構築に努めます。

↓

職員間での気づきを管理者へ報告し、改善するよう個々へ指導を実施した。

- (5) 機能訓練指導員を中心に、利用者の状態に合わせて「自分で出来る事を最大限に行っていただける」よう最適な運動プログラムを提供します。

↓

各職種からの意見を機能訓練指導員が集約し、「自宅での暮らし」をイメージした中での運動プログラムを提供している。

- (6) 職員の健康状態の確認、規定時間毎の消毒・換気を行いながら密集密接にならないようにサービス提供を行う

↓

出勤時、昼休み後の検温を実施し、ご利用者へ職員が感染源にならないよう努めている。また、出勤前に不安を感じる時は、無理をせず自宅療養にて経過を見ることでディサービス内でのクラスターは発生していない。

- (7) 利用者、またそのご家族への感染症対策への周知を行います。

↓

案内文を作成し、症状が少しでもある時はご利用を控えて頂くよう徹底することができた。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- (1) 話しかけやすい雰囲気作りの確立をします。

↓

日頃から、職員の欠点を見るのではなく、良い点を見るように努めることで話をしやすい雰囲気作りに繋がっている。

- (2) 専門性向上の為に資格所得の協力体制の確立をします。

↓

資格習得希望者には勤務希望・変更を柔軟にし、他職員への理解と協力を得ることができている。

- (3) 有給を取得しやすい環境・協力体制の確立をします。

↓

家庭の事情に関しては、できる限り有給を活用することで安心して休める体制を作っている。その他の希望についても順番に有給を取れるよう考慮している。

(4)業務内容の改善を図り、健康面の配慮を行っていきます。

↓

人員配置の偏りがないよう勤務表作成に努めた。体調不良時は、負担の少ない業務指示や早退など不安なく働ける環境を作り、に努めた。

4. 地域貢献

(1)地域での行事やボランティア活動に参加、近隣住民との連携・情報交換に努めます。

↓

コロナ禍にて行事が中止となり参加ができなかった。

(2)利用者とバザー作品を作り、地域文化祭で販売を行います。

↓

コロナ禍にて行事が中止となり参加ができなかった。施設内での文化祭にて物品販売を行い好評であった。

令和3年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
介護	在宅	24	26	24	28	27	30	30	30	29	28	29	28	333
	まほろば	15	16	16	17	16	16	16	16	16	15	15	15	189
予防	在宅	5	6	6	8	6	7	7	7	7	7	6	5	77
	まほろば	3	3	3	3	3	3	3	3	3	5	5	4	41
総合計		47	51	49	56	52	56	56	56	55	55	55	52	53
1日平均人数		16.6	18	18.3	19.6	19.3	19.1	19.3	19.5	18.4	17.9	19.1	20.9	18.8
利用者実績(月)		432	472	475	530	503	497	502	506	498	466	460	543	4,680

通所介護

要介護度別人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	18	18	17	21	20	18	18	18	19	19	19	20	225
要介護2	9	9	8	8	8	10	10	10	10	10	11	10	113
要介護3	8	9	9	10	10	11	11	10	12	11	10	9	120
要介護4	5	5	5	6	5	5	5	5	4	5	5	5	60
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	40	41	39	45	43	44	44	43	45	45	45	44	4284
平均要介護度	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.9	1.9	2	1.9	1.9	1.85

予防通所介護

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	3	3	3	4	4	4	4	4	4	5	4	4	46
要支援2	4	5	5	5	4	4	4	4	5	5	5	4	54
合計	7	8	8	9	8	8	8	8	9	10	9	8	396

各種サービス状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用	4	3	0	7	2	2	0	0	1	2	2	0	23
中止者	3	1	0	2	1	0	0	2	0	3	0	1	13

事故報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	1	0	1	1	1	6	2	3	0	0	0	15

令和3年度行事報告

4月	・工作(鯉のぼり)・野外散歩、お花見
5月	・工作(折り紙ひまわり)・夏野菜の畑作り
6月	・工作(絵手紙)・夏の壁面作成・夏野菜収穫
7月	・工作(キーホルダー)・夏野菜収穫と調理
8月	・工作(写真立て)・秋の貼り絵作り、朝顔の種取り
9月	・壁面の菊作り・工作(ソープレフラワー)・敬老会
10月	・工作(ふくろうんちりめん)・折り紙にてハロウィンのリース作り・冬野菜、お花植え
11月	・工作(干支の置き物)・文化祭(作品展覧会)
12月	・工作(しめ縄飾り)・12/25クリスマス会・12/31忘年会
1月	・工作(鬼のお手玉)・お正月遊び(かるた、福笑い)・春の壁画作り
2月	・工作(絵手紙)・2/1～6豆まき・春の壁面作り
3月	・工作(絵手紙)・春の壁画作り

令和3年度 ヘルパーステーションなのくに 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

- (1) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ってサービスを提供するよう努めます。

↓

去年のサービスのマンネリ化・業務中心の反省を生かし、利用者に寄り添ったサービスに心がけ、個別カンファレンスを多く持つようにできた。

- (2) 職員が一体となって稼働率向上への取り組みの工夫を行います。

↓

新型コロナの影響により、月初めの実績報告を各居宅支援事業所に直接伺い手渡しする機会が減り、営業活動に支障が出たが、FAX や郵送にて空き状況をお知らせし、新規獲得につなげることができた。新規利用者の獲得はできていたが、利用回数が多い利用者が特養入所・24 時間訪問介護に移行したことで利用率が減少させてしまった。

- (3) 安全かつ快適なサービスを提供するために、職員間等の報告・連絡・相談の徹底を図る。計画に変更が生じた際は、利用者のニーズに基づいた訪問介護計画を再検討します。

↓

申し送りノートの活用、ラインやメールなどを活用し、情報共有の強化を図ることができた。計画の変更が出て来たときは、サービス提供責任者が中心となって計画書の再検討を行う事ができた。

- (4) ヘルパーステーションは、デイサービス・ショートステイの在宅サービス・施設サービスが同じ敷地内に立っており、一連の流れでご利用していただくことができる。その為、連携強化を図り、法人全体の収益が上がるように努めます。

↓

自宅での入浴が困難になってきた利用者をデイサービスのリフト浴を紹介し、利用獲得につなぐことができた。介護負担が出て来た家族に、ショートステイの提案を行い、利用獲得につなぐことができた。

2. 高品質なサービスの提供

- (1) 各種研修会参加や学習会を充実させ、業務に対する一人一人の意識改革及び専門性・実践力の向上を図ります。

↓

外部講習会の情報を職員に伝え、参加してもらい、質の底上げを行う事ができた。

- (2) 訪問介護会議・内部研修を月 1 回開催し、サービス提供にあたっての情報の共有と事業所全体の必要事項伝達、年間計画に沿った研修を実施します。

↓

事業所内研修・会議を毎月開催し、欠席者には資料を配布したり、回覧を回したりとフォローも行った。

- (3) 定期カンファレンスを行い、各計画の確認・見直しを実施。また、同行訪問を実施し手順の見直し及び提供するサービスの質の評価を行い、その改善を図ります。

↓

プラン変更時及び更新時期等にカンファレンスを実施することにより、計画の見直しにつなぐことができた。利用者の新しいニーズ、不足しているニーズをケアマネージャーに提案することもできた。

- (4)個人を大切にして質の高い接遇(特に言葉使い)ができるよう、研修参加・日々のケアの向上・信頼関係の構築に努めます。

↓

年間研修計画に「接遇」を立て職員の教育を行った。日々の振り返りができるように、接遇資料を全職員に配布した。

- (5)要望・苦情の際には速やかに必要に応じた対応を行い、利用者の満足を損なわないように対処し、関係職種、関係機関へ書面にて報告します。

↓

「同じヘルパーさんに来て欲しい」との要望が、新型コロナが流行・拡大するにつれて数件問合せがあり、その都度、感染症対策を説明し理解を求めた。

- (6)感染対策マニュアルを日々更新し、訪問する際の感染症に関する正しい知識と技術を身に付け、予防及びまん延に努めます。

↓

新型コロナウイルスの対策を、各利用者・各担当ケアマネージャーへ、事前に説明していたことで、大きな混乱になることはなかった。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- (1)職場環境の風通しを良くし、チームワークの確立を行っていきます。

↓

定期会議・研修だけでなく、個別での年間計画を立ててもらい、面談時に意見の言い易い環境づくりに努めることができた。

- (2)有給を取得しやすい環境整備・協力体制を確立します。

↓

一人の利用者に最低3人対応ができるよう日頃から同行を行い、カバーできる体制を作ることで、有休を取得しやすい環境づくりを行えた。この体制により、感染症対策で急な職員の休みでも対応することができた。

- (3)訪問介護員自身の健康管理に対して配慮します。

↓

夏場の身体介護が連続にならないようにシフトを調整し、夏バテ防止に努めた。新型コロナ対策もあり、今年も体調不良者に配慮を行った。

- (4)業務内容の改善を常に図っていきます。

↓

ヘルパー個々によってサービス手順にバラツキが見られないように、手順書の見直し・統一を行い、全職員に周知を行うことができた。

4. 地域貢献

- (1)近隣の行事・会議に参加し、近隣住民との連携・情報交換に努めます。

↓

必要時には、利用者の近隣の民生委員・自治会にも協力を要請。利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせる環境に努めた。拾六町団地の困難事例者(猫ゴミ屋敷・認知症で独居)を受け持ち、地域で暮らしていくサポートを行った。

訪問介護事業所

①令和3年度利用者実績報告

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録者 (実人数)	(予防)	36	36	37	36	38	37	38	39	36	35	37	38	36.9
	(介護)	35	35	32	35	29	28	27	31	31	32	34	31	31.6
サービス提供 (延べ人数)	(生活)	115	106	98	87	70	79	80	86	84	86	86	82	88.2
	(身・生)	57	52	59	59	38	32	43	49	51	39	52	67	49.8
	(身体)	240	196	207	170	89	77	69	91	121	143	153	163	143.2
	(予防)	191	204	224	211	209	215	224	229	217	195	199	250	214.0
1日の利用者数(平均)		20	18	20	17	13	13	13	15	15	15	18	18	16.3
登録者(計)		71	69	69	71	67	65	65	70	67	67	71	69	68.4
内まほろば(計)		22	21	20	20	21	21	20	18	19	20	21	21	20.2

②令和3年度研修報告

・内部研修

月	研修内容	月	研修内容
4月	接遇(サービスマナー)	10月	認知症ケア
5月	食中毒	11月	虐待・拘束防止
6月	クレームや苦情への対応法	12月	緊急時の対応
7月	脱水・熱中症予防	1月	高齢者の身体を知る
8月	倫理・法令遵守とプライバシー保護	2月	事故再発防止
9月	災害への備え	3月	多職種連携

・同行訪問実施。

令和3年度 ケアプランセンターなのくに 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

(1) 利用者、家族との関係性を保ち、適切なケアマネジメントにて担当件数の維持に努めます。

↓

年間平均実績 51 件 担当件数維持ができた。

(2) いきいきセンター、病院連携室への定期的なアナウンス・情報交換を行い新規獲得に繋がります。

↓

いきいきセンター、病院連携室との良好な関係を維持し利用者の紹介を受けることができた。

(3) 各種機関との関係性を築き、信頼され、選ばれる事業所を目指します。

↓

関係機関との関わりは丁寧に行った。

2. 高品質なサービスの提供

(1) 運営基準を順守し、責任ある事業所運営を行います。

↓

令和3年4月の介護報酬改定に対応し、運営基準に沿った事業所運営ができた。

(2) 課題分析に基づいた根拠あるケアプランの作成を行います。

↓

アセスメントをもとに課題分析を行い、根拠あるプランの作成を行うことができた。

(3) 特定事業所に偏らず公正・中立な立場で情報提供し、利用者、家族のご意向に沿ったサービス選択が行えるよう努めます。

↓

特定事業所に偏らず、情報提供を行うように努めた。また特定事業所集中減算の該当は無かった。

(4) 介護保険サービスのみならず、保健・福祉・医療、地域の社会資源を含めた総合的なケアプラン作成に努めます。

↓

介護保険サービスだけでなく、地域の社会資源を活用し、利用者の生活課題の解決に向けたプラン作りを行うことができた。

(5) 継続的なモニタリング・評価・アセスメントを通じ情報収集、関係機関との連携を図り、要介護状態の重度化予防、自立支援を目指します。

↓

感染状況を見ながら、できる限り自宅訪問を行うことで状況の変化をモニタリングでき、相談やプラン変更に繋げることができた。

(6) 自己、他者評価にてサービスの質の評価を行います。

↓

自己評価を実施し、ケアマネジメント実践を振り返ることはできたが、他者評価の実施はできなかった。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

(1) 定例会議で担当ケースの情報共有、相談、事例の検討を行います。

↓

定期、随時の相談にてケースの共有や相談、支援の方向性等を共に考えることができた。

(2) 他部署との連携、協力を行います。

↓

他部署との情報交換、連携を行い協力関係が築けた。

(3) 内部・外部の研修会にて、介護支援専門員としての質の向上を目指します

↓

内部・外部の研修会を活用し、自己研鑽に努めた。

4. 地域貢献

(1) 地域行事への参加、ネットワーク活動を通し顔が見える関係づくりを行います。

↓

コロナ禍の影響を受け、地域活動やネットワーク活動は縮小したが、ZOOMで行われる連携会議や研修への参加はできた。

(2) 地域ケア会議、圏域連携会議への参加、相談窓口として活用していただけるよう努めます。

↓

ケアマネ連絡会の事例検討会へ2回参加し、担当利用者に関わる地域の方の相談窓口として動くことができた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
介護	47	46	46	51	47	49	49	52	51	52	51	50	49
予防	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	3	3	2
合計	48	47	47	52	49	51	51	54	53	54	54	53	51

令和3年度 まほろばの里なの国 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

- (1) 計画的な広報活動を継続し、常時満室を目指す。また待機者の確保にも努めます。

↓

コロナ感染症の収束に目途が立たず、入居控えや見学控えがあったため、稼働率は97.4%にとどまった。中でも浴室のついた居室への入居希望者が少なく苦戦した。退居者数は令和2年度の15名からかなり減り、7名に抑えることが出来た。検温等の健康チェックが功を奏しているものと思われる。

- (2) 年間を通した行事や、日々の活動をホームページにて発信し、入居者獲得に結び付けます。

↓

感染予防の観点から、行事や物品販売の回数を減らしたため、積極的な発信ができなかった。

- (3) 入院や退居の要因を未然防止できるよう、日々の健康管理やADL低下防止のための取り組みを継続して行います。

↓

感染予防として、食事前や行事前後の手指消毒、朝夕の検温等を徹底したため、入居者・職員からのコロナ感染者は出なかった。また、検温等で訪室する機会が増えたことから、体調不良者や事故の早期発見に繋がったと思われる。しかし、長引く面会制限や、外泊等の行動制限からADLだけでなく、精神的な落ち込みや、認知症の進行にも繋がっていることは否めない。

2. 高品質なサービスの提供

- (1) 戸別訪問を中心とした生活相談の強化を図り、ご入居者のニーズの把握・精神面の安定・苦情発生の予防に努めます。

↓

個別の訪室時間をとることは難しかったが、入居者から直接相談に来られることが多くなった。特に相談員が2名いるため、いずれかの相談員に話をしに来られることが増えたため、相談員記録により、相談内容の共有を図るようにした。

- (2) 年2回開催している運営懇談会のうち、1回を入居者ご家族にもご参加頂く機会を設け、より開かれた施設運営を行います。

↓

前年度に続き、今年度も感染症予防の観点から、一堂に会しての運営懇談会は一度しか行えなかった。後の一回はアンケート集計資料を配るのみに留めた。よって、第三者やご家族の参加は行えなかった。

- (3) かかりつけ医・訪問看護、他事業所等との連携強化を継続して取り組み、医療的な早期発見・早期対応を行います。また、新型コロナに対する感染症対策マニュアルを日々更新し、職員間での入居者の体調を情報共有し、予防及びまん延に努めます。

↓

入居者個々のかかりつけ医や訪問看護、他事業所との連携を看護師中心に行った。特に近隣医であるせんばクリニックとは連携を深め、感染症に関する相談や、コロナワクチン接種に関しでの協力体制については、良好な関係性が構築できたと思う。

- (4) 十分な感染防止対策を前提として午後活動の充実を継続して行い、生活の不活発の予防に努めます。

↓

前年度に引き続き、行事の縮小を余儀なくされたが、体操、映画鑑賞会、手芸、喫茶等は感染対策を十分に行いながら活動できた。次年度は館内で楽しめる新しい企画を考えていきたい。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- (1) 毎月のミーティング時に、接遇・コミュニケーション・サ高住に関連する制度理解等、短時間の勉強会を継続して行います。

↓

スタッフミーティングの際に、管理者による接遇の研修を行った。また、3ヶ月に1回は身体拘束・虐待防止の研修も行っている。

- (2) 福岡市事業者研修・有料老人ホーム協会等、外部研修に計画的な参加を行い、職員のスキルアップを目指します。

↓

感染予防の観点から、外部研修がリモートで行われることが多くなった。管理者およびスタッフが出来る限り関係する研修に参加するようにした。

- (3) 有給を取得しやすい環境整備・協力体制を確立します。

↓

各自1~2ヶ月に一回は有給取得を行っている。また、他部署も含め、協力体制をとりながら、働きやすい職場環境の整備に努めることが出来た。

4. 地域貢献

- (1) ご入居者が地域社会とつながった生活を継続できるよう、地域行事のアナウンス強化や、送迎等の環境整備に努めます。

↓

前年度に引き続き、今年度も公民館行事等はほぼ行われなかった。

- (2) 地域で行われる年間行事やボランティア、バザー活動に、職員・ご入居者共に積極的な人的派遣を行い地域貢献に努めます。

↓

前年度に引き続き、今年度もバザー等はなく、人的派遣も行わなかった。

- (3) 地域住民向けの講座(制度理解・認知症・介護技術・防災等)を積極的に行い、地域包括ケアにおける地域住民の意識向上を支援します。

↓

今年度も公民館活動や集会所活動が制限され、講義等に出向く機会がなかった。次年度から少しずつ活動が再開されれば、是非地域貢献したい。

令和3年度 まほろばの里なの国 入居者実績報告

利用者状況

①入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数	2	2	0	2	1	0	0	1	0	0	0	1	9
退居者数	0	2	1	0	1	0	1	1	0	0	0	1	7
月末在籍住戸数	39	39	38	40	40	40	39	39	39	39	39	39	39.2
月末在籍者数	42	42	41	43	43	43	42	42	42	42	42	42	42.2
月末在居者数	41	42	41	43	41	41	40	41	39	38	38	40	40.4
延べ利用人数	1240	1272	1227	1292	1263	1230	1252	1191	1224	1192	1063	1210	1221.3
稼働率	96.1%	97.4%	97.0%	96.8%	98.2%	100.0%	97.5%	96.7%	97.5%	97.5%	97.5%	96.7%	97.4%

②月別要介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自立	7	7	7	8	8	8	7	7	7	7	7	8	7.3
要支援1	7	7	7	7	7	7	7	8	7	6	6	6	6.8
要支援2	4	5	4	4	5	5	5	5	5	5	5	6	4.8
要介護1	13	14	14	15	15	15	15	13	13	14	13	12	13.8
要介護2	9	8	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	7.4
要介護3	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1.4
要介護4	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0.5
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均要介護度	1.58	1.43	1.52	1.50	1.39	1.39	1.39	1.50	1.61	1.58	1.63	1.55	1.51

事故発生件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	3	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	7
転倒	3	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	6
座り込み・落床	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
誤嚥・誤飲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚のトラブル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
配薬関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	3	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	7

苦情受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2

入院延日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	3	29	27	1	48	60	50	59	78	104	113	82	654

令和3年度 なの国ケアスクール 事業報告

事業目標

経営の充実と安定した運営に取り組む

具体的計画

1. 利用率の向上

- (1) 計画的な広報活動を行い、各講座の受講定員数(初任者研修 10 名 実務者研修 20 名)の確保に努めます。
- (2) ホームページを活用し、Web システムや研修内容など、スクールの魅力発信を積極的に広報し受講者獲得に結び付けます。
- (3) 教育訓練給付制度、介護福祉士修学資金貸付制度等の助成制度の活用を広報し、また申請代行の充実化を図ることで受講者確保につなげることを目指します。

↓

福岡市系島市を中心に積極的な広報活動を行い、「介護福祉士実務者研修(19 名)」「初任者研修(7 名)」の修了生を輩出した。

受講生の、受講に関する金銭的負担の軽減として、教育訓練給付金(実務者 7 名・初任者 1 名)、介護福祉士修学資金貸付制度(10 名)の活用を積極的に支援した。

2. 高品質なサービスの提供

- (1) 担当講師との意見交換・振り返りを随時行い、講義・演習内容、研修環境等のさらなる充実を図ります。
- (2) 最新の介護知識・技術に応じた研修を実施できるよう、DVD等の使用教材、補助テキストの情報収集を積極的に行い、随時更新していきます。
- (3) 実習受入れ施設と密な連携を図り、現場で働くことを意識した実習プログラムを提供します。
- (4) 「介護福祉士受験対策講座」等、他にはないオプションサービスの充実を図ります。

↓

受講生のアンケートや、個別の聞き取りをもとに講義内容や配布資料の見直しを行い、講義・演習の質の向上に努めた。DVD 等の視覚的な教材についても、最新のものを追加導入した。介護福祉士受験対策については、Web システムの積極的な活用をサポートすることや、関連雑誌の予想問題等の提供を継続して行った。

感染症対策を行い、安全・安心に開校することができた。

新型コロナ陽性となった受講生、濃厚接触者になった受講生には、特別補講で対応し、資格取得の支援を行った。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- (1) 法人内職員への研修受講を積極的に啓発し、有資格者数の向上に努めます。
- (2) 法人内で講義・演習を実施出来る人材を計画的に育成し、講師の量と質の向上に努めます。
- (3) 受講修了者から、当法人への雇用に結ぶことにより、慢性的な職員不足の解消に貢献します。

↓

法人内職員 2 名「介護福祉士実務者研修」が資格を取得した。

担当講師との意見交換・振り返りを毎授業ごとに行い、質の向上を図った。

今期、ケアスクールの生徒から、法人職員としての雇用を増やすことはできなかった。

4. 地域貢献

- (1)地域住民に、積極的な学習の機会を提供することで、地域福祉の向上に貢献します。
- (2)高校生等が受講しやすいスケジュール調整を行い、介護人材確保の向上に努めます。

↓

高校生・地域住民・公民館への広報活動を行ったが、受講希望者は得られなかった。